

マネジメント研究科 マネジメント研究科 専門職学位課程 (2018年度入学)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■ベーシック科目	経営戦略 高橋 秀直	1学期	1	2	1
	1年				
	マーケティング 松田 憲	1学期	1	2	2
	1年				
	アカウンティング 任 章	1学期	1	2	3
	1年				
	ファイナンス 武田 寛	2学期	1	2	4
1年					
組織とイノベーション 鳥取部 真己	2学期	1	2	5	
1年					
マネジメント入門 高橋 秀直	1学期	1	2	6	
1年					
経済学入門 畔津 憲司 他	1学期	1	2	7	
1年					
■アドバンスト科目	マーケティング戦略 柳瀬 隆志	2学期	1	2	8
	1年				
	知識マネジメント 永田 晃也	1学期	1	2	9
	1年				
	パブリック・マネジメント 工藤 一成	1学期	1	2	10
	1年				
	国際ビジネス・スキル アダム・ヘイルズ	1学期	1	2	11
	1年				
ロジスティックス 幕 亮二	2学期	2	2	12	
2年					
問題解決スキル 齋藤 朗宏	1学期	1	2	13	
1年					
チーム・マネジメント 池田 浩	集中	2	2	14	
2年					
国際経営 王 効平	1学期	1	2	15	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■アドバンスト科目	地域づくり総論 城戸 宏史	1学期	2	2	16
		2年			
	会社法 舞田 靖子	2学期	2	2	17
		2年			
	管理会計 劉 仲明	1学期	2	2	18
		2年			
	財務諸表分析 任 章	2学期	1	2	19
		1年			
	人材マネジメント 鳥取部 真己	2学期	1	2	20
		1年			
	地域産業 城戸 宏史	1学期	2	2	21
		2年			
環境ビジネス 松永 裕己	1学期	2	2	22	
	2年				
経営倫理と企業法務 舞田 靖子	2学期	1	2	23	
	1年				
消費者行動 松田 憲	1学期	2	2	24	
	2年				
■エグゼクティブ科目	ベンチャー・ビジネス 坂本 剛	1学期	1	2	25
		1年			
	戦略的提携と事業創造 雨森 良治	1学期	2	2	26
		2年			
	フィナンシャル・インベストメント 武田 寛	1学期	2	2	27
		2年			
	中国ビジネス BUS601S 迫 和男	1学期	2	2	28
	2年				
医療マネジメント 石井 義輝	2学期	2	2	29	
	2年				
福祉マネジメント 垣迫 裕俊	1学期	2	2	30	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■エグゼクティブ科目	自治体政策	1学期	2	2	31
	幕 亮二	2年			
	モノづくり競争力の強化	2学期	1	2	32
	未定	1年			
	ソーシャル・ビジネス	2学期	1	2	33
	松永 裕己	1年			
	医療経済	2学期	1	2	34
	石井 義輝	1年			
	社会保障	2学期	1	2	35
	工藤 一成	1年			
	自治体経営	1学期	1	2	36
	幕 亮二	1年			
	産学連携と事業創造	1学期	2	2	37
	城戸 宏史	2年			
	アジア型経営	2学期	2	2	38
	王 効平	2年			
	NPO / NGO実践論	2学期	2	2	39
	平 由以子	2年			
	サービス・マネジメント	2学期	1	2	40
	桑野 和泉	1年			
中華圏の経営思想	2学期	1	2	41	
王 効平	1年				
中華圏の貿易実務	2学期	2	2	42	
増田 正美	2年				
地域プロジェクト・マネジメント	2学期	2	2	43	
林田 暢明	2年				
ビジネス中国語	1学期	1	2	44	
森田 三恵子	1年				
経営学特講	集中	1	2	45	
王 効平	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■プロジェクト研究科目	グループ・ディスカッションI	1学期	1	2	46
	王 効平	1年			
	グループ・ディスカッションI	1学期	1	2	47
	城戸 宏史	1年			
	グループ・ディスカッションI	1学期	1	2	48
	工藤 一成	1年			
	グループ・ディスカッションI	1学期	1	2	49
	高橋 秀直	1年			
	グループ・ディスカッションI	1学期	1	2	50
	武田 寛	1年			
	グループ・ディスカッションI	1学期	1	2	51
	鳥取部 真己	1年			
	グループ・ディスカッションI	1学期	1	2	52
	任 章	1年			
	グループ・ディスカッションI	1学期	1	2	53
	松田 憲	1年			
	グループ・ディスカッションI	1学期	1	2	54
	松永 裕己	1年			
	グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	55
	王 効平	1年			
グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	56	
城戸 宏史	1年				
グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	57	
舞田 靖子	1年				
グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	58	
工藤 一成	1年				
グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	59	
高橋 秀直	1年				
グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	60	
武田 寛	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		担当者			
	備考			クラス	
■プロジェクト研究科目	グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	61
	鳥取部 真己	1年			
	グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	62
	任 章	1年			
	グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	63
	松田 憲	1年			
	グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	64
	松永 裕己	1年			
	プロジェクト研究I	1学期	2	2	65
	王 効平	2年			
	プロジェクト研究I	1学期	2	2	66
	城戸 宏史	2年			
	プロジェクト研究I	1学期	2	2	67
	工藤 一成	2年			
	プロジェクト研究I	1学期	2	2	68
	高橋 秀直	2年			
	プロジェクト研究I	1学期	2	2	69
	武田 寛	2年			
	プロジェクト研究I	1学期	2	2	70
	鳥取部 真己	2年			
プロジェクト研究I	1学期	2	2	71	
任 章	2年				
プロジェクト研究I	1学期	2	2	72	
松田 憲	2年				
プロジェクト研究I	1学期	2	2	73	
松永 裕己	2年				
プロジェクト研究II	2学期	2	2	74	
王 効平	2年				
プロジェクト研究II	2学期	2	2	75	
城戸 宏史	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■プロジェクト研究科目	プロジェクト研究II	2学期	2	2	76
	工藤 一成	2年			
	プロジェクト研究II	2学期	2	2	77
	高橋 秀直	2年			
	プロジェクト研究II	2学期	2	2	78
	武田 寛	2年			
	プロジェクト研究II	2学期	2	2	79
	鳥取部 真己	2年			
	プロジェクト研究II	2学期	2	2	80
	任 章	2年			
	プロジェクト研究II	2学期	2	2	81
	松田 憲	2年			
	プロジェクト研究II	2学期	2	2	82
	松永 裕己	2年			

# 経営戦略【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

経営戦略の理論と技法，その応用分析を中心的な内容とした講義を行う。理論とデータ加工によって，分析的に思考するスキルを高めながら戦略的思考力を高めることが本講義の目的である。本講義の到達目標は，経営戦略に関する基本的な理論や考え方を習得し，それらを用いて自分なりの視点から経営戦略を策定することができるようになることである。なお，講義の前半に事業戦略を，後半に全社戦略を扱う。授業は，ケーススタディを基本とする。事前にリーディングを読み込んだ上で，戦略分析に関する小レポートなどを提出してもらい，受講生と討議する時間を設ける予定である。

## 教科書 /Textbooks

特に，指定せず，適宜資料を配布する。  
 (なお，ケースを用いる場合，そのケース代金(1冊千数百円)が追加的に必要になる場合があるので注意されたい)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎『1からの戦略論 第2版』碩学舎  
 奥村昭博『経営戦略』日経文庫  
 石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣  
 大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略：論理性・創造性と社会性の追求』有斐閣

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション
  - ②競争戦略(1)：業界の構造【Five-Forces分析，補完的生産者】
  - ③競争戦略(2)：業界の構造(ケース討議)
  - ④競争戦略(3)：差別化【顧客価値】
  - ⑤競争戦略(4)：差別化(ケース討議)
  - ⑥競争戦略(5)：コスト・リーダーシップ【規模の経済，範囲の経済，経験曲線】
  - ⑦競争戦略(6)：コスト・リーダーシップ(ケース討議)
  - ⑧競争戦略(7)：ビジネスモデル【価値連鎖，活動システムマップ】
  - ⑨競争戦略(8)：ビジネスモデル(ケース討議)
  - ⑩全社戦略(1)：事業の定義【企業ドメイン】
  - ⑪全社戦略(2)：事業の定義(ケース討議)
  - ⑫全社戦略(3)：垂直統合【取引コスト，中間組織，アライアンス】
  - ⑬全社戦略(4)：垂直統合(ケース討議)
  - ⑭全社戦略(5)：多角化【多角化の種類，PPM】
  - ⑮全社戦略(6)：多角化(ケース討議)
- なお，授業の内容は，進捗状況や受講生の興味等に応じて，変更する可能性がある

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度30%、小レポート30%、期末レポート40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にリーディングを読み込んだ上で，戦略分析に関する小レポートなどを提出してもらう。  
 また，事後的にもリーディングに関する分析レポートを課すこともある。

## 履修上の注意 /Remarks

経営に関する知識があることが好ましいが，前提とはしない。  
 予習や復習には，かなりの時間が必要となる。  
 詳細は初回の講義にアナウンスする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# マーケティング【夜】

担当者名 /Instructor 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

**授業の概要 /Course Description**  
 本講義は、コトラーやドラッカー等の提唱するマーケティングの基本理論の理解を目指します。マーケティングは販売活動に留まるものではなく、需要者の欲求を満たす価値を供給者が提供し、需要者はそれに対して対価を払うことを意味するものです。

**教科書 /Textbooks**  
 講義ごとに資料を紙面配布

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**  
 ・ フィリップ・コトラー，ケビン・レーンケラー『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 第12版』丸善出版 2014年 ¥9180  
 ・ 石井淳蔵, 栗木契, 嶋口充輝, 余田拓郎 ( 著 ) 『ゼミナール マーケティング入門 第2版』日本経済新聞出版社 2013年 ¥3200  
 ・ 石井淳蔵, 廣田章光 ( 編著 ) 『1からのマーケティング』中央経済社 2009年 ¥2400  
 他にも、講義内で適宜紹介

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**

- ① マーケティングとは1：ガイダンスと授業の概観
- ② 市場分析1：市場とは何か，BtoBとBtoC，5F，3C，PEST分析，PPM，SWOT分析，マーケティング戦略，ランチェスター戦略，クープマン目標値
- ③ 市場分析2：グループワーク1
- ④ マーケティングの基本要素1：STP，4P，マーケティングミックス，顧客にとっての価値
- ⑤ マーケティングの基本要素2：グループワーク2
- ⑥ 製品戦略1：製品とは，製品多様化戦略，プロダクトライフサイクル，新商品開発プロセス
- ⑦ 製品戦略2：ブランドの基本要素と機能，ブランド・エクイティ
- ⑧ 価格戦略1：価格戦略，価格設定（コスト志向型，需要志向型，競争志向型）
- ⑨ 価格戦略2：新製品の価格戦略，価格センシティブリティ，価格弾力性
- ⑩ 創造的思考とイノベーション1：破壊的イノベーション，イノベーションのジレンマ，創造性とは，パラダイムとブレイクスルー
- ⑪ 創造的思考とイノベーション2：グループワーク3
- ⑫ 流通戦略1：流通チャネル政策，VMS，サプライチェーン，チャネルシフト，オムニチャネル
- ⑬ 流通戦略2：立地要因，商圈要因，出店戦略
- ⑭ 広告戦略：AIDMAとDUAL AISAS，DAGMAR理論，ハワード・シエス・モデル，Web広告
- ⑮ マーケティングとは2：まとめ

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 講義内小レポート（8回）..70%  
 グループワーク成果..30%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**  
 授業後には、必ず授業の復習をおこなってください。

**履修上の注意 /Remarks**

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**  
 ドラッカーの言うように「マーケティングが目指すものとして、顧客を理解し、顧客に製品とサービスを合わせ、おのずから売れるようにする」ためにも、必ずしも効用を最大化するような合理的な判断を行わない人間の心理にも注目していきたいと思います。

**キーワード /Keywords**  
 マーケティング



# アカウンティング【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

アカウンティングは、ビジネス世界における、外部ステークホルダーに対する経営情報伝達のための共通言語である。本講座にあってはビジネススクールの履修者に期待される水準の「財務会計」（すなわち、利害関係者に向けた外部報告会計）の基礎知識を学ぶ機会が与えられる。教室にはまず大学学部における財務諸表論と重なりあう内容を確認してゆくが、その後は財務諸表分析、さらには企業のIRディスクロージャー戦略に至る視点に絡む考察を加えてゆく。講義コンテンツにあっては、ある程度（英文）カタカナの会計用語のリテラシーが得られるよう、デザインされている（但し、受講される上では英語力は問わない）。本講座の到達目標は、受講後、修了者が、企業の財務報告の意義と関わる制度に関心を持ち、たとえば日経新聞の証券市場欄等の記事情報にヨリ関心を持ち、財務諸表に示された主要な数値の意味を解釈、分析できるようになることである。

また、学期中に1回、学外からもゲストを招聘し、財務会計分野の視角を広げる機会を得ることがある（過年度は京都大学教授藤井秀樹先生に御出講願った）。

## 教科書 /Textbooks

任 章 著『アカウンティングと財務諸表分析』（その年度の最新版）  
（初回の教室にて無償配布。アドバンスト科目たる財務諸表分析でも本テキストを継続使用するので大事に使ってください）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考図書の購入は義務ではなく、下記はあくまで例示の程度です。会計分野の程よい入門書はたくさんあります。

- ・ ロバート・アンソニー / レスリー・ パールマン 著 西山茂監訳 (2007年) 『アンソニー会計学入門』 東洋経済新報社 (いわゆる英文会計に馴染むために推薦する基本書。ただし購入は任意であり、授業には全く使用しない。)
- ・ 簿記の学習をされたことがない人は、日商簿記検定3級程度の参考書 (たくさん出ている本のうちから、よろしければご自分で適宜選んで) をご自身で学習してみてください。簿記の知識は本講座受講の前提ではありませんが、関わる知識があれば、この分野で用いられる考え方につき「反射神経」のようなものが磨かれるでしょう。
- ・ ○任 章著 (2017) 『監査と哲学 - 会計プロフェッションの懐疑心 - 』 同文館出版 (会計学で用いる基礎概念と用語の定義、会計監査諸基準の内容、さらには会計監査の歴史について知りたい方には「参考」になるとと思います)。

# アカウンティング【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

主として以下のコンテンツを、各々モジュールとして積み上げて行く（但し、プレゼンテーションの時間をとる必要もあり、講義順や講義内容は大きく変わる）。

①オリエンテーション：本講座の領域と目的、課題について。

【オリエンテーション】

②企業とアカウンティング：会計の役割と機能について（なぜ今、あえて「会計」を考えなければならないのか？）。

【会計の役割と機能】

③会計原則（GAAP）とは何か：特に米国基準（US-GAAP）と国際基準（IFRS）について。

【GAAP】

④バランスシートの機能について。

【B/S】

⑤P/Lの機能について。

【P/L】

⑥キャッシュフロー計算書の作成方法とその機能について。

【キャッシュフロー】

⑦簿記とアカウンティング・サイクルの一巡について。

【アカウンティング・サイクル】

⑧決算修正：アクルーアル処理とその会計倫理上の限界について。

【アクルーアル】 【アグレッシブ・アカウンティング】

⑨ディスクロージャー：その制度と脚注情報について。

【ディスクロージャー】

⑩情報信頼性の担保方法：監査報告書について。

【監査】

⑪財務諸表分析の基礎的アプローチ方法について。

【財務諸表分析】

⑫年次報告と投資家向広報（IR）について。

【アニュアルレポート】

⑬隣接領域と意思決定会計への展望について。

【意思決定】

⑭MBA アカウンティングのWrap-Up.

【MBA】

⑯アドバンスト財務会計への展望

【財務会計】

...以上のモジュールを、受講者の意欲とニーズを量りつつ、ウェイト配分を微調整しながら講義する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートそのものの質（15%程度）、プレゼンテーションの積極性やディスカッションに際しての貢献度（15%程度）、ミニテストの成績（2回実施で70%程度）、を適宜ウェイト付けし、総合的に（100%にして）判断します（成績評価上はどうしても相対評価が基本となります）。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、（次回の講義でカバーする範囲をその前の回に示しますので）予めバラバラとテキストをめくって見て、イメージを掴む程度で結構です。事後学習としては、授業中、理解できなかった箇所を教員に（教室内で、あるいはメール等により）質問し、教員からのアドバイスや返答を得て、その後理解を定着させること。さらに、二度実施予定のミニテストに備えて、関わる用語と概念、計算方法等につき、習熟を重ねておくことが望まれます。その他、授業外学習としては、やはり、日本経済新聞の金融関係のコラム記事等に日頃より関心を持ち、親しむことが効果的と思われる。

## 履修上の注意 /Remarks

学部生が学ぶ簿記論の授業等とはアプローチが全く異なります。特に簿記会計の知識経験がなくとも、授業内容それ自体は十分に理解できると思います。英語の専門用語を多く引用しますが、カタカナで理解してもらえますから英語力も不問です。その他、必要なことはその都度、教室にて事前に連絡します。

配布プリント等の教材はきちんとファイルされ、各回、過去のものも忘れず教室に持参してきてください。それと、原則、隔週での一日二コマ授業です。理解促進の為に遅刻してもできるだけ欠席回は少なくするのがよいでしょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員は一方通行の講義をするのではなく、インタラクティブにコミュニケーションをとりたいと考えています。そのためにも、履修者がテーマを選んで自発的にプレゼンテーションをする機会を設けたいと考えています。教室にてはぜひ積極性を発揮してください。

## キーワード /Keywords

上記の中でも特に、簿記、GAAP、IFRS、B/S、P/L、キャッシュフロー計算書、財務諸表監査、他。

# ファイナンス【夜】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

企業経営や地域リーダーに必要なファイナンスの知識と分析能力を修得する。具体的には、①～⑤では、ファイナンスとは何かを学び、組織の目標とガバナンスや、ファイナンシャル・プランニングについて学ぶ。⑥～⑩では、現在価値分析を理解し、ファイナンスの意思決定について学ぶ。⑪～⑬では、企業の資金調達と資本構成について学ぶ。

到達目標は以下のとおり。①ファイナンスの基礎知識を身につけ、ファイナンシャル・プランニングができるようになる、②ファイナンス理論を理解し、企業や家計についてのファイナンスの意思決定ができるようになる、③企業の資金調達と資本構成についての理論を理解し、分析できるようにする。

## 教科書 /Textbooks

ブリーリー&マイヤーズ&アレン著、藤井眞理子・国枝繁樹（監訳）（2014）『コーポレート・ファイナンス（第10版） 上』、『同 下』日経BP社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ボディ&マートン&クリートン著、大前恵一朗訳、（2011）『現代ファイナンス論 原著第2版』ピアソン
- 砂川&川北&杉浦著（2008）『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社
- 砂川&川北&杉浦&佐藤著（2013）『経営戦略とコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社
- 中島真志（2015）『入門 企業金融論』東洋経済新報社
- 三井住友信託銀行マーケット事業（2016）『第6版 投資家のための金融マーケット予測ハンドブック』NHK出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①企業の目標とガバナンス（1）イントロダクション  
【ファイナンスの定義】【投資判断】【資金調達に関する決定】【株式会社】
- ②企業の目標とガバナンス（2）財務担当者の役割と資本の機会費用  
【金融システム】【資金循環】【金融仲介の機能】【投資のトレードオフ】
- ③企業の目標とガバナンス（3）株式会社の目標  
【価値の最大化】【経営者】【株主】【利害関係者】【エージェンシー問題】【コーポレート・ガバナンス】
- ④ファイナンシャル・プランニング（1）  
【ファイナンシャル・プランニングのプロセス】【ファイナンシャル・プランニング・モデルの設計】
- ⑤ファイナンシャル・プランニング（2）  
【成長と外部資金調達の必要性】【運転資本管理】【流動性と現金計画】
- ⑥現在価値の計算方法（1）  
【将来価値】【現在価値】【収益率】【資本の機会費用】【NPV】【IRR】
- ⑦現在価値の計算方法（2）  
【永久債】【成長型永久債】
- ⑧純現在価値とその他の投資基準  
【NPVルール】【IRRルール】【投資回収ルール】【相互に排他的なプロジェクト】
- ⑨リスクと資本コスト  
【WACC（ワック）】【CAPM（キャップエム）】【株主資本コスト】【ベータ】
- ⑩プロジェクト分析（1）  
【感応度分析】【シナリオ分析】【損益分岐点分析】【営業レバレッジ】
- ⑪プロジェクト分析（2）ケース
- ⑫企業の資金調達の概要  
【内部資金】【株式】【負債】【金融市場】【金融機関】
- ⑬企業はどれだけ借り入れるべきか  
【支払利子の節税効果】【財務上の困難】【トレードオフ理論】【ベッキング・オーダー理論】【行動ファイナンス】
- ⑭企業の資金調達と資本構成：ケース
- ⑮まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの貢献度 30パーセント  
課題の提出 70パーセント  
※学生が授業に出席することは前提のため、欠席はマイナス評価となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本経済新聞を購読して、ファイナンスの知識を活かし自分の考えを持って批判的に読んでください。  
課題をすらすら解けるようになるまで復習してください。

## ファイナンス【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 組織とイノベーション【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、経営組織にまつわる理論・枠組みを学ぶ。コースの前半ではミクロ組織論（組織行動論）を中心とした理論基盤の学習を行う。コース後半では、マクロ組織論（組織デザイン論）と企業の変革にまつわる学習を行う。各講義回では、ケースやミニ・ケースをもとに事例分析やケース・ディスカッションを行い、さらには受講生の発表をもとに、基礎的な諸理論の理解と実践力の向上を図る。本講義の到達目標は、経営組織のマネジメントを実践するうえでの基礎的な知識を習得することである。

## 教科書 /Textbooks

適宜、資料を配布するが、ロビンズ『組織行動のマネジメント(新版)』を教科書に準じた参考書として扱う。なお、ケース教材を用いる場合、そのケース代金（1冊千数百円）が追加的に必要になる場合があるので注意されたい。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- ロビンズ著,高木晴夫監訳『組織行動のマネジメント(新版)』ダイヤモンド社,2009年。
- 金井壽宏『経営組織』日経文庫,1999年。
- 金井壽宏『リーダーシップ入門』日経文庫,2005年。
- 沼上幹『組織デザイン』日経文庫,2004。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN【経営学、組織行動論】
- 2回 個人と集団(1)【合理的な意思決定】
- 3回 個人と集団(2)【公正性】
- 4回 個人の特性(1)【性格特性、Big5】
- 5回 個人の特性(2)【適性検査】
- 6回 モチベーション(1)【モチベーション、欲求階層説】
- 7回 モチベーション(2)【期待理論、目標設定理論】
- 8回 リーダーシップ(1)【リーダーシップ、基本二次元】
- 9回 リーダーシップ(2)【変革型リーダー】
- 10回 リーダーシップ(3)【製品開発リーダー】
- 11回 マクロ組織(1)【機能別組織】【事業部制】
- 12回 マクロ組織(2)【ネットワーク型組織】【チーム】
- 13回 マクロ組織(3)【企業文化】【企業風土】
- 14回 組織変革(1)【組織変革】
- 15回 組織変革(2)【8段階ステップ】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度40%、期末レポート60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前学習教材と問いを指定し、事前学習向けに参考図書の章を指定するので、それらに対する事前学習をしっかりと行うこと。また、講義で理解が進まなかった点について復習を行うことに加えて、発展学習として指定した書籍・論文などを閲覧し、理解をさらに深めることが期待される。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# マネジメント入門【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ 企業や組織のマネジメントの理解に必要な基礎的な専門知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	○ マネジメントに関わる課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	○ 市民としての社会的責任感や倫理観を持ち続けることができる。
	企業変革態度	○ マネジメントの知識を用いて企業に関する高い見識と変革する力を持ち続けることができる。
	地域リーダー態度	○ マネジメントに関する知識を用いて地域に関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

マネジメント入門

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、経営学の初学者を対象に、経営学の基礎的な知識を提供すること、企業あるいは組織というものの存在により関心を払ってもらうようになってもらうことが目的である。さらに、この講義を通じて、必修科目やアドバンス科目、エグゼクティブ科目の理解が深まるようになることも目的である。本講義の到達目標は、経営学の基礎的な知識を習得することである。

## 教科書 /Textbooks

特に指定せず、適宜資料を配布する。  
 (ケースを使用する場合、ケース代金が別途必要になる場合がある)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

神原清則『経営学入門(上・下) 第2版』日本経済新聞出版社、2013年。  
 神戸大学経済経営学会『ハンドブック経営学』ミネルヴァ書房、2011年。  
 井原久光(編)『経営学入門キーコンセプト』ミネルヴァ書房、2013年。

基本的には必修科目の教科書・参考書に準じる。  
 それ以外については、適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション：企業経営の全体像
- ②マネジメントとは(1)【マネジャー、マネジメント】
- ③マネジメントとは(2)【マネジメント環境、組織文化】
- ④意思決定と計画(1)【意思決定プロセス、限定合理性】
- ⑤意思決定と計画(2)【計画策定の本質、戦略的マネジメント】
- ⑥外部環境分析(1)【マクロ環境分析】
- ⑦外部環境分析(2)【産業・業界分析】
- ⑧内部環境分析(1)【バリューチェーン】
- ⑨内部環境分析(2)【コア・コンピタンス、経営資源分析】
- ⑩組織デザイン(1)【職務設計、情報処理パラダイム】
- ⑪組織デザイン(2)【職能性組織、事業部制組織、マトリックス組織】
- ⑫組織変革(1)【組織変革、変革プロセス】
- ⑬組織変革(2)【抵抗のマネジメント、リーダーシップ】
- ⑭組織間関係【資源依存、取引コスト】
- ⑮総合討議

なお、受講生の理解度や関心に応じて、内容は適宜変更される可能性がある。

# マネジメント入門【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への貢献度..30%、小レポート..30%、期末レポート(テスト)..40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にリーディング(ケース及び教科書的なもの)を読み込んだ上で、課題について考えてきてもらう。  
また、授業で扱った理論やフレームワークなどを用いたケースの(再)分析課題を課すこともある。

## 履修上の注意 /Remarks

特に前提となる知識は必要としない。

ケーススタディの形式を用いる予定である。そのため事前のリーディング(ケース及び教科書的なもの)を読み込んだ上で、課題について考えてきてもらい、それらを中心に議論しながら経営に対する考え方などに対する理解を深める予定である。  
また、十分な復習をすることで理解を深めてもらいたい。

経営学の初学者向けの講義であるため、経済・経営系の学部を卒業した者、経営に関する様々なセミナー等に参加したことのある者、経営系の書籍を多数読んだ者については、履修する必要はない。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

内容が盛りだくさんのため、進度等が早いと思われるが、食らい付いてもらいたい。

そのためには予習や復習にかなりの時間が必要になる。

また、授業を含めて、常に自分で考えることが求められる。

## キーワード /Keywords

# 経済学入門【夜】

担当者名 /Instructor 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

実際のビジネスを検討するためには経済学の他、心理学や社会学などの視点も有用であり、その統合学問として経営学がある。一方、ビジネス・エコノミクスは、ビジネスを検討するために専ら経済学のロジックを用いる。本講義の目的は、経済学のロジックに特化した思考方法を身につけ、ビジネスに対する新たな視点を獲得することである。

## 教科書 /Textbooks

特に指定はしません。授業のテーマ別に参考書を紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

伊藤元重、『ビジネスエコノミクス』、日本経済新聞社、2004年。  
 ジョン・マクミラン、『市場を創る』、NTT出版、2007年。  
 アピナッシュ・ディキット / バリー・ネイルバフ、『戦略的思考とは何か』、阪急コミュニケーションズ、2006年。  
 ポール＝ミルグロム・ジョン＝ロバーツ、『組織の経済学』、NTT出版、1997。  
 中室牧子・津川友介、『原因と結果の経済学』、ダイヤモンド社、2017年。  
 伊藤公一朗、『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』、光文社新書、2017年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業ではテーマとなるロジックや手法とその応用例を解説した後に、演習やグループディスカッションを行う。

第1回：イントロダクション【ビジネスエコノミクス】【経済学】

第2回：経済学の思考方法①【費用】【便益】

第3回：経済学の思考方法②【合理的意思決定】

第4回：ゲーム理論のロジック①【均衡】【囚人のジレンマ】

第5回：ゲーム理論のロジック②【バックワードインダクション】

第6回：価格戦略のロジック①【支払い可能金額】【需要の法則】

第7回：価格戦略のロジック②【価格差別戦略】

第8回：市場と組織のロジック①【割当】【情報】

第9回：市場と組織のロジック②【市場メカニズム】

第10回：因果関係について①【相関関係】

第11回：因果関係について②【因果推論】

第12回：因果関係の検証方法①【ランダム化】

第13回：因果関係の検証方法②【反実仮想】

第14回：その他の検証方法①【自然実験】【差の差の分析】

第15回：その他の検証方法②【回帰不連続デザイン】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業の演習やグループディスカッションへの取り組み ( 60% ) + 最終プレゼンテーション ( 40% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業のテーマ別に適宜、演習問題や参考資料を提示します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



## マーケティング戦略 【夜】

担当者名 /Instructor 柳瀬 隆志 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

前半は、ホームセンターの経営における企業ブランドの育成事例を元に、企業でのブランド戦略について考える。企業のCMやウェブサイトのデザインを制作する際、顧客のイメージ調査なども参考にしつつ、企業の経営戦略やブランド戦略を、どのようにクリエイティブに落とし込むかについて、具体的なケースに基づいて検討・議論する。

後半は、セルフサービスBIツール「Tableau」の使用方法についてのハンズオン講習も行って習得した上で、POSデータやオープンデータ等の様々なデータを実際に手を動かしながら分析し、企業の実務でどのようにデータを活用するのかを学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

投影資料及びレジュメを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「ブランド論 --無形の差別化を作る20の基本原則」 2,640円 ダイヤモンド社 著者: デービッド・アーカー

「Tableauによる最強・最速のデータ可視化テクニック ~データ加工からダッシュボード作成まで~」 3,740円 翔泳社 著者: 松島 七衣

「Tableauで始めるデータサイエンス」 4,180円 秀和システム 著者: 岩橋 智宏、今西 航平、増田 啓志

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 企業におけるマーケティングとは?【ガイダンスと授業の概観】
2. ブランド戦略
3. ディスカッション:ブランドとは?
4. ケーススタディ1:【ホームセンター「GooDay」のブランド戦略】
5. ケーススタディ1:【ディスカッション】
6. CM制作:【企業CM制作の流れ】
7. グループワーク1:【模擬CMの制作】
8. ゲスト講師:【CM制作の実際】
9. ディスカッション
10. 企業におけるデータ分析:【嘉穂無線ホールディングス株式会社の取組事例】
11. データ分析:【セルフサービスBI「Tableau」の紹介】
12. 実習1:【「Tableau」の基本操作①】
13. 実習2:【「Tableau」の基本操作②】
14. AI×BIの活用
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50%、レポート 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習の内容については、授業の後も興味あるデータなどを用いて自主練習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ マーケティングの基礎的な理論に加え、データ分析においては統計の知識をもっていた方が授業の内容をより深く理解できます。
- ・ 模擬CMの制作も予定していますので、スマホやPCによる簡単な動画編集のやり方なども調べておいて下さい。
- ・ データ分析実習で使用するTableauを各自のPCにインストールしてもらいます。具体的な方法については、授業の中で説明します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中で、実際のCMの絵コンテや、売上データなども提供し、出来るだけ企業の実務に即した内容にしていきたいと思っています。

## キーワード /Keywords

ブランド、データ分析、小売業

# 知識マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 永田 晃也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

資本ストックや労働などの生産投入要素の拡大による成長が限界に達した現在、我々は、知識が最も重要な資源となる「知識社会」の到来に直面している。これに伴い、近年の組織論の研究領域では、組織を情報処理システムとして見る伝統的なパラダイムを超えて、知識を創造する主体として組織を捉える新たな理論が提唱されている。また、個人の知識を組織的に共有・活用しながら知識を創造する手法の体系化を指向する「ナレッジ・マネジメント」が、急速に普及してきた。

本講義は、これらの理論と経営手法を包括的に修得し、経営資源としての知識の創造、活用および蓄積に関する戦略的な指針を得ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ・ 野中郁次郎・ 竹内弘高『知識創造企業』東洋経済新報社、1996年
- ・ 野中郁次郎・ 泉田裕彦・ 永田晃也編著『知識国家論序説』東洋経済新報社、2003年
- ・ 杉山公造・ 永田晃也・ 下嶋篤・ 梅本勝博・ 橋本敬編著『ナレッジサイエンス(改訂増補版)』近代科学社、2008年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 序論：経営資源としての知識
- ② 組織的知識創造の理論(1)「情報処理」から「知識創造」へ
- ③ 組織的知識創造の理論(2)リーダーシップと知識創造のイネーブラー
- ④ 知識創造プロセスの検証(1)技術的イノベーションにおける知識創造
- ⑤ 知識創造プロセスの検証(2)パブリックセクターにおける知識創造
- ⑥ ナレッジ・マネジメントの方法(1)ナレッジ・マネジメントの導入
- ⑦ ナレッジ・マネジメントの方法(2)知識移転と知識共有
- ⑧ ナレッジ・マネジメントの方法(3)発想支援と情報技術の利用
- ⑨ ナレッジ・マネジメントの方法(4)知識資産の概念と計測
- ⑩ ケース討論(1)
- ⑪ ケース討論(2)
- ⑫ ケース討論(3)
- ⑬ 総合討論
- ⑭ 課題レポートのプレゼンテーションとディスカッション
- ⑮ 課題レポートのプレゼンテーションとディスカッション

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートとプレゼンテーション50%、ケース分析シート20%、ディスカッションへの貢献度30%  
 なお4回以上の欠席は不可とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料は熟読して次回講義に臨むこと。ケース討論に用いる資料は、分析シートとともに事前配布するので、資料の内容をよく理解した上で、分析シートに所要事項を記入して授業当日に提出すること。

## 履修上の注意 /Remarks

履修条件は特になし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

見えざる資産である知識の所在を洞察するための視点と、新たな知の創造を担うリーダーシップを身に付けていただくことが本科目の狙いです。皆さんの積極的な参加を期待しています。

## キーワード /Keywords

知識創造、ナレッジ・マネジメント、SECIモデル

## パブリック・マネジメント【夜】

担当者名 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

資本主義経済の成熟化や超少子高齢社会、人口減少社会の到来などにより、公共的な仕事は国や地方公共団体などの政府部門だけではなく、営利法人・非営利法人などの民間事業者や地域コミュニティがその一翼を担うことにより、効率的で効果的なモノやサービスの提供を行う仕組みが形成されています。そこでは「政府・行政＝公」、「官民連携あるいは民主導＝公共」という理解が広がりつつあります。伝統的な「行政管理」または公的部門に民間の経営手法を導入する「公経営」から、官民が対等の立場で、あるいは民主導によって社会的課題の解決を事業化しようとする「公共経営（パブリック・マネジメント）」への変革が行われてきたわけです。

歴史的に見ると、1970年代～80年代においては米国のレーガノミクス、英国のサッチャリズムによってNPM（New Public Management：新しい公共経営）と呼ばれる取り組みがなされるとともに、わが国においては1980年代からの規制改革や公益法人改革などによって市場原理の導入が進められました。1990年代には地方公共団体による行政評価や企業会計手法の導入など、公的部門への民間の経営手法の導入が試みられ、やがて国において制度化されたNPMの取り組みが推進されるようになりました。

今後はこれまでのNPMの成果を踏まえて、公共的な仕事における政府部門（政治・行政プロセス）や民間部門の役割分担と連携をさらに進めるとともに、ポストNPMの取組み、すなわち公共的なサービスの最終消費者でありステークホルダーとしての市民や企業を主体とするNPG（New Public Governance：公共ガバナンス）が重要となります。また、そこでは公共を支える公正や社会正義の概念、さらには高度な職業倫理がこれまで以上に重視されるべきでしょう。

本講座では、これらの歴史的経緯と制度的内容、実践例などを紐解き、NPMやNPGを包含する概念としての公共経営（パブリック・マネジメント）における新しい方法論や事業構築を模索し、さらには今後の経済社会の枠組みを展望します。

## 教科書 /Textbooks

毎回の授業において、資料を配布します

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『行政学』西尾勝 有斐閣
- 『日本の公共経営』外山公美等 北樹出版
- 『社会的共通資本』宇沢弘文 岩波新書
- 『非営利組織の経営』P.F.ドラッカー ダイヤモンド社
- 『非営利法人経営論』岩崎保道 大学教育出版
- 『公共哲学』マイケル・サンデル ちくま学芸文庫

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 公共経営総論（1） 【公共とは何か、歴史、公共セクターの役割や特性】
- ② 公共経営総論（2） 【公共セクターの職業倫理、ソーシャルキャピタルの概念、社会的共通資本】
- ③ グループ討議 【学生による討議と発表】
- ④ 公共経営総論（3） 【NPMとNPG】
- ⑤ 公共経営総論（4） 【財政と公共ガバナンス】
- ⑥ グループ討議 【学生による討議と発表】
- ⑦ 公益事業とその担い手（1） 【公益事業とその経営組織（営利・非営利）】
- ⑧ 公益事業とその担い手（2） 【公益法人やNPOとその事業構築、活動資金】
- ⑨ 公共サービスの改革（1） 【官民連携とガバナンス】
- ⑩ 公共サービスの改革（2） 【公共法人等の多様化とガバナンス】
- ⑪ 公共政策（1） 【ゲストスピーカー：市民参画、地域政策など】
- ⑫ 公共政策（2） 【ゲストスピーカー：NPO法人など】
- ⑬ グループ討議 【学生による討議と発表】
- ⑭ まとめ（1） 【小論文の提出とプレゼンテーション】
- ⑮ まとめ（2） 【小論文の提出とプレゼンテーション】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への態度、姿勢、貢献度・・・25%、期末小論文の提出とプレゼンテーション・・・75%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の資料については、BS-MOODLEにアップしますので、一読して授業に臨んでください。

## 履修上の注意 /Remarks

# パブリック・マネジメント【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業においては、適宜、質問や自発的な意見発表が行われることを歓迎します。

## キーワード /Keywords

公と公共、公正と社会正義、ソーシャルキャピタル、私益と公益、自助・互助・共助・公助、NPM、規制改革、官民パートナーシップ、NPG

## 国際ビジネス・スキル【夜】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

International Business Skill offers students the opportunity to develop the skills necessary to make successful business presentations in an international environment. While the emphasis will be on technique, a strong focus on enhancing English-language skills will be maintained throughout. It is hoped that this course will enable students to make professional, persuasive, and entertaining business presentations which feature the use of accurate and appropriate English.

## 教科書 /Textbooks

Marion Grussendorf, Express Series: English for Presentations: (Oxford: Oxford University Press 2007)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Rabb, Margaret Y., The Presentation Design Book : Tips, Techniques and Advice for Creating Shows and More  
(Chapel Hill, NC : Ventana Press, 1993) 図書館 書庫 4 F (600-700), 674.6/R11

Zelazny, Gene, Say It With Charts : The Executive's Guide to Visual Communication  
(New York : McGraw-Hill, 2001) 図書館 書庫 4 F (300), 336/Z2

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Opening a presentation / Structuring a presentation
- 3回 Organizational details / Getting the audience's attention
- 4回 Signposting / Talking about difficult issues
- 5回 Referring to other points / Adding ideas
- 6回 Introducing visuals / Saying numbers / The rule of six
- 7回 Emphasizing important points / Making contrasts and describing results
- 8回 Talking about visuals
- 9回 Talking about trends
- 10回 Student presentations 1
- 11回 Summarizing the main points / Making recommendations
- 12回 Phrases for effective conclusions / Using your voice effectively
- 13回 Dealing with questions and interruptions
- 14回 Student presentations 2
- 15回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of homework assignments and presentations - 100%.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

So as to encourage language acquisition and involvement in discussion, reading through class content prior to each class is recommended. Rereading class content after each class is also advised.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## ロジスティクス【夜】

担当者名 /Instructor 幕 亮二 / Ryoji Maku / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

財・サービスを求める需要者に供給（サプライ）するには、生産資源（原材料・労働力）を無駄なく効率的に活用するとともに、適正な需要予測に基づく生産管理により、在庫・欠品や不稼働時間等、非生産的な要素を最小化することが重要です。サプライチェーン（供給活動の連鎖）を適切にマネジメント（管理）することで、企業の生産性向上に役立てようとする、サプライチェーン・マネジメントという概念や取り組みは、我が国ではバブル崩壊以降、あらゆる業種でキャッシュフロー経営が重視されるようになった頃、一時期ブームとなっていました。昨今国際物流網の形成やIoT等情報化の進展、災害や労働争議等による円滑な物流ネットワークにおける迂回や遅延等、考慮せねばならない環境や条件が多岐に渡るとともにその変化の速度が急となっており、改めてグローバルなサプライチェーン・マネジメントの重要性が再認識されています。

本講は、サプライチェーン・マネジメントの基礎的な理論から、今日における深化・高度化の過程を理解するとともに、実際の様々な産業分野での商流・物流における活用から、社会全体のサプライチェーン・マネジメントを目指すスマート物流まで、講師と受講者含めた講座全員でのケーススタディ（ディスカッション）を通じ学びます。

## 教科書 /Textbooks

授業毎にレジメを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

次回講義のディスカッション・テーマに関する参考書やURLを、授業各回終了後にリストで配布します。

SCMの基本的考え方や論点に関する参考書としては、以下を参照ください。

「サプライチェーン・マネジメント概論」 苦瀬博仁編著,白桃書房

「ザ・ゴール」 エリヤフ・ゴールドラット著,ダイヤモンド社

## ロジスティクス【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①ガイダンス（講義の全体構成・進め方の説明）  
サプライチェーンとサプライチェーン・マネジメントの定義、背景となる理論と歴史の変遷について概観します。  
【制約理論】【バリューチェーン】【S&OP ( Sales & Operations Planning ) 】
- ②生産工程の計画と管理  
工場内の製造過程におけるボトルネック（制約条件）の探索と、その認識を前提とした生産工程（調達・生産・流通）の計画と管理について学びます。  
【スループット】【バッファー】【DBR ( Drum Buffer Rope ) 】
- ③ケーススタディ（製造業その1：機械製造業）  
自動車産業等加工組立型の製造業を題材に、工場内の生産工程に着目したサプライチェーン・マネジメントについて、ケーススタディによるディスカッションを行います。  
【ジャスト・イン・タイム】【TQC ( Total Quality Management ) 】【セル生産方式】
- ④物流の計画と管理  
サプライチェーンにおける物流ネットワーク・物流施設の立地計画について学びます。  
【グローバルロジスティクス】【物流センター】【フォワーダー】
- ⑤ケーススタディ（製造業その2：半導体産業）  
半導体産業を題材に、グローバルなサプライチェーン・マネジメントについて、ケーススタディによるディスカッションを行います。  
【前工程・後工程】【水平分業】【OEM ( Original Equipment Manufacturer ) 】
- ⑥流通チャンネルの計画と管理  
取引の流れ（商流）におけるリスク分担と、自社優位を目標とするチャネルキャプテンが目指すべき全体最適化の方法について学びます。  
【チャネルキャプテン】【閉鎖型・開放型】【オムニチャネル】
- ⑦ケーススタディ（流通業その1：日用品）  
主に日用品の流通を担うスーパーマーケットやコンビニエンスストアにおけるサプライチェーン・マネジメントについて、ケーススタディによるディスカッションを行います。  
【POS ( 販売時点情報管理 : Point of sale system ) 】【サブスクリプション】
- ⑧需要予測と在庫の計画・管理  
サプライチェーン・マネジメントの基盤である需要予測と在庫計画・管理について、予測におけるバイアスと留意点を中心に整理します。  
【ヒューリスティクス】【現在性バイアス】【ナレッジマネジメント】
- ⑨ケーススタディ（流通業その2：買回り品）  
アパレル（衣料品）や家具等のいわゆる買回り品の流通におけるサプライチェーン・マネジメントについて、ケーススタディによるディスカッションを行います。  
【先・後染め】【SPA ( 製造小売業 : Speciality store retailer of Private label Apparel ) 】
- ⑩リスクマネジメント  
不測の事態が発生した場合に備える冗長性（リダンダンシー）の重要性と、これを含むサプライチェーン・マネジメントにおけるリスク対策の考え方について学びます。  
【リスク・危機管理】【BCP ( 事業継続計画 : Business Continuity Plan ) 】
- ⑪ケーススタディ（リスクマネジメント）  
リスクとなり得る事象とその際の影響、事前にマネジメントできる部分と方策について、グローバルと国内それぞれのケーススタディによるディスカッションを行います。  
【リスクアセスメント】【復旧・防災SCM】
- ⑫リバースチェーン  
電子タグとGPS（位置情報システム）の高度化等による、静脈物流に関する情報管理の精度向上を背景とした、製品開発から廃品処理までの総合的なサプライチェーン・マネジメントの重要性について学びます。  
【3R ( Reduce Reuse Recycle ) 】【トレーサビリティ】【中間処理施設】
- ⑬ケーススタディ（廃棄物）  
グローバルな範囲での静脈物流とその管理について、稼働の標準化等の課題や、社会全体のサプライチェーン・マネジメント推進の視点を含め、ケーススタディによるディスカッションを行います。  
【エコタウン】【静脈物流】【グリーン・サプライ・チェーン】
- ⑭スマート物流  
個社や企業グループの競争力向上のためのサプライチェーン・マネジメントから、社会全体の物流や人材活用の効率化を目指す、我が国の「スマート物流」の取り組みについて学びます。  
【ドライバー不足】【共同配送】【GAFA】
- ⑮ケーススタディ（医薬品）  
厳しい品質管理（温度・使用期限等）が求められる製品の代表例である医薬品について、ケーススタディによるディスカッションを行います。  
【コールドチェーン】【ドラッグストア】【ジェネリック】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のディスカッションへの貢献度（50%）と、全7回のディスカッションに関するレポート（50%）をもとに総合的に評価します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業各回終了後、次回講義のディスカッション・テーマに関して、参考書やURL等のリストを配布しますので、参照・予習して講義に参加してください。

## 履修上の注意 /Remarks

隔週2コマ講義ですので、前半を座学講義、後半は特定業種におけるSCMに関して、出席受講者全員によるディスカッションを、講師がファシリテートします。

# ロジスティックス【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

リテーターになり行います。受講者の積極的な参加を期待します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ディスカッションで大切な技術は、「聞く・聞き出す」力です。議論を通じて、相手だけでなく自分の意見や考え方を自問していく過程を楽しみましょう。

## キーワード /Keywords

サプライチェーン・マネジメント 需要予測 スマート物流



## 問題解決スキル【夜】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

近年の、所謂情報化社会においては、情報を如何に読み解くかが重要なキーとなっています。特にデータ・数字の情報の読み取りには統計的な知識・技術が欠かせません。また、自ら情報を発信するに際しても、データ・数字を統計的にどう扱うかは重要なテーマとなります。何故なら、グローバル化の進展がとどまることなく、社会・文化的なバックグラウンドが異なる人同士でコンセンサスを取るには客観的なデータが不可欠であるからです。

この授業では、データとは何か、データから何を見ることができののかをまず学びます。その上で、課題となるデータにどのような処理を加えることで、どんな結論を導き出すのか、実際に各自で取り組み、発表を繰り返す形で学んでいきます。

この授業を通して、科学的・論理的な問題解決のために必要な、データを通した客観的な意思決定の能力を身につけてもらいたいと考えています。

## 教科書 /Textbooks

使用しません

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

竹内光悦他著、実践ワークショップExcel徹底活用 統計データ分析基礎編、秀和システム  
○山田剛史他著、Rによるやさしい統計学、オーム社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション, 事前テスト, グループ分け
- 2回 事前テスト解説, Excel入門【データの読み取り】【グラフ】【Microsoft Excel】
- 3回 グループワークI, 要約統計量の算出【平均値】【分散】【標準偏差】
- 4回 データ分析の基本I【統計的仮説検定】
- 5回 データ分析の基本II, グループワークII【回帰分析】【データからの知識抽出】
- 6回 Rのインストールと使い方入門【R】
- 7回 グループワークIII データの再分析
- 8回 様々な分析手法I【クラスター分析】【コレスポンデンス分析】
- 9回 様々な分析手法II【コンジョイント分析】
- 10回 グループワークIV
- 11回 分析結果発表
- 12回 班ごとの分析データ決定
- 13回 分析方針の発表と必要な分析手法の説明
- 14回 グループワークV
- 15回 最終発表と講評

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 普通の授業への参加度合い...50%  
尚、欠席は減点の対象となります。また、第1回目の事前テストは成績と関係ありません。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

基本的にはグループワークとなり、毎週次の週の報告のための準備が必要になります。

## 履修上の注意 /Remarks

PCを用いてデータを実際に分析することが中心となる授業です。そのため、原則としてノートPCを持参するようにしてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# チーム・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 池田 浩 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 集中  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、チームを構成するメンバーが、活動を通して相互作用する過程でチームに備わってくる（創発されてくる）特性としてチームワークやチーム・シナジーを理解する。そして、優れたチームを形成するために必要とされるチーム・リーダーシップとして、チームレベルとして発生する共有型・分有型リーダーシップ、メンバーを下から支援するサーバント・リーダーシップを理解しながら、チームをより高品質なものへと育み、強化するための働きかけを考える視点について論じていく。

グループ・ダイナミクス、社会心理学、組織行動論を学術的論考の基盤としつつ、組織現場で発生している現実問題を題材として取り上げながら、いかなるマネジメントが効果的であるのかを、マイクロレベル（＝個人の心理プロセスや行動特性）と、それらが相互作用することのできながら、また変容していくマクロレベル（チーム・パフォーマンス、チーム規範、チームワーク等）の相互作用ダイナミズムに注目しながら、講義を進めていく。具体的に取り上げるトピックは、次のような構成を考えている。

1. チーム・マネジメントに関する研究と実践の歴史
2. チームとは何か
3. チーム・モチベーション
4. チームワークとは何か
5. チームにおける問題解決
6. チーム・リーダーシップ
7. サーバント・リーダーシップ
8. メンバーのフォロワーシップ

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。必要な資料は、各授業において配付する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 「チームワークの心理学 - よりよい集団づくりをめざして -」山口裕幸(著)サイエンス社  
「社会心理学におけるリーダーシップ研究のパーспекティブII」坂田桐子(編)ナカニシヤ出版  
「サーバント・リーダーシップ」ロバート・グリーンリーフ(著)金井壽宏(監修)・金井真弓(訳)英知出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、集中講義形式での開講を予定しており、第1日(金・2コマ)+第2日(土・6コマ)+第3日(金・2コマ)+第4日(土・5コマ)で構成を考えている。また、講義を基盤とするが、課題を準備して、自らの意見を考えたり、受講生どうして議論したりする、演習形式も適宜、取り入れる。

<1日目: 2コマ(講義を中心に進めます)>

- ① チーム・マネジメントに関する研究と実践の歴史【機械組織観、ホーソン研究、オープン組織】
- ② チームとは何か【チームの特性、類型、規範、硬直化現象】

<2日目: 6コマ(講義とグループワーク)>

- ③ チーム・モチベーション(1)【ワークモチベーション、プロセスロス、プロセスゲイン、腐ったリンゴ効果】
- ④ チーム・モチベーション(2)【映像資料の視聴とそれに基づく討論】
- ⑤ チームワークとは何か(1)【チームワークに関するグループワーク】
- ⑥ チームワークとは何か(2)【相互調整、相互支援、共有メンタルモデル、トランザクショナル・メモリー】
- ⑦ チームにおける問題解決(1)【ダイバーシティ、フォルトライン(断層)】
- ⑧ チームにおける問題解決(2)【チームにおける創造性、集団意思決定】

<3日目: 2コマ(講義を中心に進めます)>

- ⑨ チーム・リーダーシップとは何か【信頼、影響力、共有型リーダーシップ、分有型リーダーシップ】
- ⑩ チーム・リーダーに求められる特性【コンピテンシー、性格、能力、倫理性】

<4日目: 5コマ(講義と演習)>

- ⑪ チームメンバーを下から支えるサーバント・リーダーシップ【奉仕、支援、自己犠牲】
- ⑫ チームメンバーを下から支える「サーバント・リーダーシップ」(課題を用いた演習)
- ⑬モチベーションを鼓舞するリーダーシップ【モチベーション、コーチング、感謝】
- ⑭ チームメンバーのフォロワーシップ【フォロワーシップ、積極的関与、独自の考え方】
- ⑮ 優れたチームを作るために(総括)

# チーム・マネジメント【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業の途中で課される課題への解答の精度(25%)、課題や議論への参加態度(25%)、期末レポート(50%)を総合して成績を評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 授業開始前までに、あらかじめ授業計画に記載してある各回のキーワードについて、その概念を調べたうえで、出席するようにしてください。
- (2) 授業終了後、疑問の残っている点をノートに書き出したうえで、次の日の授業に出席してください。その疑問について授業の中で発表していただき、議論します。

## 履修上の注意 /Remarks

集中講義で開講しますので、1コマだけ休むということが難しい授業です。全コマ出席できることをあらかじめ良く確認して履修するようにしてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

組織の職場において、どうすれば人は自律的なモチベーションをもって仕事に取り組むことができるか、相互に高質な協力連携をすることができるか、また管理者の立場に立ってそれらをどのようなマネジメントによって引き出すことができるかを理論的根拠とともにそれを支持する実証的な知見(データ)を添えながら講義を行います。それに加えて、受講者の皆様のご発言を頂きながら、理論と実践とを結びつけていきます。

## キーワード /Keywords

チーム、チームワーク、チーム・モチベーション、チーム・マネジメント

## 国際経営【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

本講義は比較経営の枠組みを押さえた上で、東アジア地域の企業経営、特に同じ漢字文化圏（または儒教文化圏）に属する国同士の企業制度（企業統治またはコーポレートガバナンス）と企業経営システム（内部特性：経営目標、経営戦略、経営組織、管理スキーム）の比較を中心に講義を進めていく。

現地企業調査で得た一次資料を活用し、具体的な企業事例を織り交ぜながら、日本と東アジア地域の企業経営様式の異同について学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

王効平『日中韓企業の経営比較』税務経理協会  
 王効平『華人系資本の企業経営』日本経済評論社  
 末廣昭『キャッチアップ型工業化論』名古屋大学出版会  
 末廣昭『ファミリービジネス論-後発工業化の担い手』名古屋大学出版会

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 比較経営の基本的枠組み【定性分析】、【定量分析】、【環境適応理論】
- 第2回 比較アプローチの意義と課題
- 第3回 東アジア型企業経営の捉え方【儒教文化圏】
- 第4回 企業制度比較I【企業統治】、【同族企業】
- 第5回 企業制度比較II【利害関係者】、【経営権市場】、【インセンティブシステム】
- 第6回 経営システムの捉え方【経営の内部特性】
- 第7回 内部特性I：経営目標【成長重視】、【利益重視】
- 第8回 内部特性II：経営戦略【国際化】、【M&A】、【戦略的提携】、【事前合理性】
- 第9回 内部特性III：経営組織【公式化】、【集権化】、【フラット化】、【ミドルアップダウン型】
- 第10回 内部特性IV：管理スキーム【業績評価】、【人材養成】、【情報伝達】
- 第11回 資金調達様式の比較【内部調達・外部調達】、【負債比率】、【自己資本比率】
- 第12回 ベンチマーク採用の有無【ビジネスモデル】、【エクセレントカンパニー】
- 第13回 事例紹介I【日本企業のケース】
- 第14回 事例紹介II【中華圏企業のケース】
- 第15回 グローバル化と東アジア型企業経営

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・小テスト 40%
- ・期末試験 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料を熟読すること  
 参考文献について掲示資料のほかに適宜追加提示するが、各自入手し、活用すること

## 履修上の注意 /Remarks

- ・私語を慎んで下さい
- ・遅刻・早退を慎んで下さい

# 国際経営【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 経営学の基礎知識が取得済みであることを前提に講義を進めていく
- ・ 質疑は随時受け付けるが、教員から質問された場合、自分の考えを述べられるように心構えをしてもらいたい
- ・ 講義中に小テストを複数回実施する

## キーワード /Keywords

## 地域づくり総論【夜】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

わが国は既に人口減社会に突入しており、経済活力の低下が深刻化しつつある。とりわけ、地方における経済活力の低下は極めて深刻な状況となっている。そのため、これまで以上に地域づくりや地域産業振興への関心が高まっている。しかしながら、従来の行政中心の手法には限界があり、行政の枠を超えたマネジメントのもとでの地域づくりや地域振興が求められている。そこで本講義では、行政の枠を超えた地域づくりのケーススタディ等により、様々な担い手によって実行される地域づくりに必要な戦略やチームマネジメントについて学ぶものとする。なお、本講義の到達目標は、①地域づくりの現場における課題を具体的に抽出できること、②地域活性化につながる地域資源を具体的に発掘できること、③地域づくりを担う具体的なチームの体制を提案し、地域におけるリーダーシップのあり方を理解できること、である。

## 教科書 /Textbooks

その都度、指示します（基本はプリント配布）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

P.F.ドロッカー「非営利組織の経営」ダイヤモンド社  
 P.F.ドロッカー「イノベーションと企業家精神」ダイヤモンド社  
 ロバート・K・グリーンリーフ「サーバント・リーダーシップ」英治出版  
 ジェームズ・C・コリンズ「ビジョナリーカンパニー【特別編】」日経BP社  
 広井良典「コミュニティを問いなおす」ちくま新書  
 塩沢由典・小長谷一之「まちづくりと創造都市-基礎と応用-」晃洋書房  
 吉本哲郎「地元学をはじめよう」岩波ジュニア新書  
 中川淳「経営とデザインの幸せな関係」日経BP社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①地域の現状から「既に起こった未来」を探せ  
【北九州地域の現状の確認：高齢化・都心空洞化・人口減少、人口構造、消費低迷】
- ②、③再都市化と都心機能の変遷  
【北九州における再都市化の動向：中心市街地、再都市化、まちなか居住】  
【都心における新しい潮流：深夜化・24時間化、生活拠点化、エキマチ化、歓楽街、都心劣化、多文化共生】
- ④、⑤中心市街地問題の真髄を考察する  
【佐世保の街づくりケースによるディスカッション：地域コミュニティ、地域イベント、自助・互助・公助】  
【中心市街地問題の諸相：地域コミュニティ、不動産問題、ジェントリフィケーション】
- ⑥、⑦地域づくりのケーススタディ（フィールド・ワーク）  
【中心市街地の活性化：小倉の繁華街の実態：商店街、歓楽街、再開発、再都市化、サービス経済化】
- ⑧、⑨地方創生政策の限界と地域コミュニティの行方  
【地方創生政策の評価と今後：地方創生の成功事例・失敗事例、移住、地方自治制度】  
【地域コミュニティとは？：公/共/私、外部マネジメント、人的ネットワーク、ソーシャルキャピタル】
- ⑩、⑪事例に学ぶ地域資源と地域事業創造  
【地域資源の発掘方法：地域資源、差別化戦略、マーケティング戦略、地域ブランド、由布院、日田】  
【ディスカッション：北九州における未開の地域資源は何か？】
- ⑫、⑬地域づくりにおける事業創造の実際（ゲスト講師を招聘）
- ⑭、⑮地域事業創造のためのフォーメーションとリーダーシップ  
【地域事業創造に必要な構成要素：サーバントリーダーシップ、ソーシャルメディア、ダウンサイジング、地域協働】  
【ディスカッション：これからの地域事業～どんな地域課題に対して、どんな地域資源を生かして、誰とつながるのか？～】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

街づくりケースに係るレポート（30%）、地域づくりに係るワークシートのアイデア（30%）、ディスカッションに対する貢献度（40%）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については適宜、資料や文献の確認・精読等を指示します。関心のある方は、可能な範囲で上記の参考書を読んで講義に臨んで下さい。また、興味のある地域を自分の足で歩き注目した点や問題点をピックアップしておいてください。事後学習については、講義に活用したパワポをmoodleにあげるのので、復習・確認をしてください。

## 履修上の注意 /Remarks

マーケティングや経営戦略といったベーシック科目をしっかり習得していることを期待します。また、できればパブリックマネジメントやソーシャル・ビジネス、ホスピタリティとサービスの履修していることが望ましいです。

# 地域づくり総論【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジネススクールならではのマーケティング等の知見を応用しつつ、地域づくりを多角的に捉えて、具体的な案件をとりあげて議論を深めたいと思います。

## キーワード /Keywords

地域事業創造、コラボレーション、すでに起こった未来、地域コミュニティ、ソーシャルキャピタル、ソーシャル・ビジネス、市街地活性化、繁華街、歓楽街、社会的課題、合意形成、地域協働、公共空間利用、地域資源、サーバント・リーダーシップ

## 会社法【夜】

担当者名 舞田 靖子 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	高度専門職業人として活動するために有益となる会社法に関する知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能	○	ビジネスにおいて生じ得る会社法上の問題を発見・処理するための技能を修得する。
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		
			会社法

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

## 授業の概要 /Course Description

企業を取り巻く法律・法的問題は多岐にわたります。また、企業の健全な発展と成長のためには、企業の利益追求のみならず、CSRやコンプライアンスを意識し、コーポレートガバナンスやリスクマネジメントに留意することが必要です。ビジネス法務の観点からは、紛争やクレーム対応等の臨床法務に留まらず、予防法務や戦略法務を意識することも重要です。そこで、本講義では、ビジネス法務に関する基礎的事項について概括的な解説を行うとともに、企業が直面する様々な法的問題について事例を通して検討し、又は実例をもとに法的観点から検討することにより、経営倫理の観点とともにビジネス法務の問題への適切な対応方策を身に付けることを目指します。

## 教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

・高巖著『ビジネスエシックス[企業倫理]』2013年、日本経済新聞出版社  
・マックス・H・ベイザーマン著 / 池村千秋 訳  
『倫理の死角 - なぜ人と企業は判断を誤るのか』2013年、NTT出版  
・國部克彦/神戸CSR研究会編著『CSRの基礎』2017年、中央経済社  
・中村信男 / 和田宗久著『ビジネス法入門 (第2版)』2017年、中央経済社  
・伊藤正己 / 加藤一郎編『現代法学入門』(第4版)2005年、有斐閣双書  
・道垣内弘人著『リーガルベシス民法入門』(第3版)2019年、日本経済新聞出版社  
・江頭憲治郎著『株式会社法』(第7版)2017年、有斐閣  
・弥永真生著『リーガルマインド法総則・商行為法』(第3版)2019年、有斐閣  
その他、必要に応じて指定します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 序論 - CSRと経営倫理、企業をとりまく法律【経営倫理とビジネス法務】【全体像】
- ② 企業の種類、機関設計、ステークホルダー【企業概説】
- ③ 私法上の法律関係【私法概説】
- ④ 契約法務(1)【契約と債権法】
- ⑤ 契約法務(2)【契約各論】
- ⑥ 秘密情報管理、知的財産【秘密情報(個人情報を含む)の管理】【知的財産権概説】
- ⑦ 紛争処理【紛争解決の手段と方法】
- ⑧ 企業、役員の実務【役員の実務と責任、損害賠償】
- ⑨ コンプライアンス、危機管理【コンプライアンスと不祥事対応】
- ⑩ M & A/組織再編(1)【M & A/組織再編の種類、法的手続概要】
- ⑪ M & A/組織再編(2)【M & A/組織再編の方法、ケーススタディ】
- ⑫ ファイナンス【資金調達手段と法】【担保・保証】
- ⑬ 倒産/事業再生【企業の倒産、事業再生の手法】
- ⑭ 演習(1)【ケーススタディ】【グループディスカッション】
- ⑮ 演習(2)【ケーススタディ】【グループディスカッション】



# 会社法【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義への取り組み態度（発言・質問・発表を通じた貢献）50%、  
課題または小テスト30%、  
演習（発言・提出物の内容）20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回講義に用いる例題や課題を示す場合がありますので、当該例題・課題を次回講義までに事前学習として検討してください。当該課題等について講義内で発表を促す場合もあります。講義後の復習と関連する事例の検討は、各自で行ってください。

## 履修上の注意 /Remarks

法律の予備知識は無いことを前提に基礎的事項の概説も行いますが、講義で学習した内容を実践的に身につけるため、自身の周囲の環境や社会の実例等に照らし、具体的に検討することが重要です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な発言、参加を歓迎します。

## キーワード /Keywords

CSR、SDGs、ESG、コンプライアンス、企業法務、予防法務、戦略法務、バランス感覚

# 管理会計【夜】

担当者名 /Instructor 劉 仲明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

企業を取り巻く環境というのはかなり変化していますので、経営のスピードを上げなければなりません。企業の経営者や事業管理者がマネジメントを遂行するために必要な経営情報を提供する目的で、本授業はこのマネジメント・アカウンティングの理論、技法、活用法について学んでいます。

まず始めに、マネジメント・アカウンティングの定義、特質、体系について学習し、マネジメント・アカウンティングの全体像を理解します。次に、経営戦略のためのマネジメント・アカウンティングという観点から、経営戦略の策定におけるマネジメント・アカウンティングの役割について、さらに、計画やコントロールのための会計という観点から、投資回収管理短期利益計画、損益分岐点分析、事業部制会計等に関する理論と手段について学習します。

理論だけでなく、実践における計算方法、差異分析のオペレーショナル・コントロールという実践の管理ツールを練習します。最後に、IT基幹システムの適用、グローバルの対応、その他の管理会計の新しい課題について議論していきます。

本講義の到達目標は、以下の通りです。

- ① 専門分野の知識・理解：マネジメント・アカウンティングの知識を理解した上で、経営管理の理論を修得することができる。
- ② 課題発見・解決能力：企業の経営管理上の問題点を分析し、課題解決のための提案を行うことができる。
- ③ 実務の分析能力：実務における計算方法、分析手段を活用することができる。

## 教科書 /Textbooks

特に使用せず、必要な資料を適宜配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 桜井通晴 『管理会計 (第6版)』 (同文館出版、2015)
- 上総康行 『管理会計』 (新世社、2017)
- 廣本敏郎, 加登豊, 岡野浩 『日本企業の管理会計システム』 (中央経済社、2012)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 授業の方針、内容についての説明
2. 経営管理と会計、財務会計と管理会計、管理会計の体系、管理会計の発展  
【会計の目的と機能】【PDCA】【経営管理の計画と統制】
3. 原価概念、原価計算 【実際原価】【標準原価】
4. 経営戦略の意義と管理会計の役たち 【経営戦略組織】【環境分析と自社分析】
5. 原価計算 【標準原価】【ABC 活動基準原価】
6. 原価計画、予算管理 【製造環境の変化】【原価企画のステップ】
7. 短期利益計画と損益分岐点分析 【総資本利益率】【CVP】
8. 事業部制会計の概要、内部振替価格と共通費の配賦問題  
【分権化組織】、【事業部の業績評価】
9. 在庫管理, 差異分析 【受け払いコントロール】【JIT】【自製か購入か】【EOQ】
10. 競争戦略とPPM 【利益目標】【事業の魅力度】
11. 投資の経済計算、資金回収管理 【回収期間法】【現在価値法】
12. 戦略管理会計 【非財務的な指標】
13. 管理会計の新課題 【BSC】【経営情報システム】  
ミニテスト
14. グローバルの対応 【内部統制 JSOX】【移転価格 BEPS】
15. グローバル企業の課題、授業のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ( 25% )、発表等の授業への貢献 ( 25% )、ミニテストの成績 ( 25% )、レポート ( 25% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企業の事例を参考にした復習を行ってください。

# 管理会計【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

企業に関する新聞記事、報道等に注意しておいてください。  
「原価計算」、「経営戦略」の履修は本講義内容の理解をより深めることになります。英語の専門用語を多く引用しますが、馴染のあるカタカナ用語に通じるものばかりです。  
基礎概念、理論の紹介をすると共に実例を用いた計算の練習もしますので、簡易な電卓を持参してもらいたいです。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多国籍企業勤務の長い実務管理経験と学術理論の知識を活用した見方、考え方をみなさんと共有したいと思います。  
本講義で学んだ知識を仕事で活用していけるように尽力したいと思います

## キーワード /Keywords

アカウンティング、原価、経営戦略、マネジメント、在庫管理

## 財務諸表分析 【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

本講座では、大学院マネジメント研究科の必修ベーシック科目であるアカウンティングの知識を基にし、財務会計領域の知識を幅広く積み上げ、意思決定、証券市場、さらには公認会計士による情報保証の問題を、末広がり考察対象に加えてゆく。本講座は慣習的な「会計学の講義」を展開することを意図していない。むしろ、刻々と変化するビジネス環境の下で、意思決定者は会計情報をいかに分析し、解釈し、自らの行動を選択するものか。実際の企業のアニュアルレポートを解析しながら、そうした論点を自発的に考え、議論しあう機会を提供する。関る思考プロセスにあってはむしろ、国際会計基準 (IFRS) の考え方を知り、その発想方法を援用することであろう。

本講義の到達目標は、履修者に様々な財務諸表分析の視点を与え、受講終了後、受講者が決算報告書 (アニュアル・レポート) を分析、解釈、評価し、意思決定に必要な情報を、自在に取り出せるようになることである。前提科目たるアカウンティングの上位に位置する科目ではあるが、より実際の、実践的に、開示された財務報告数値に対峙し、経営的判断のベースを得ることができるだろう (本講座では直に数字に取り組むから、かえってアカウンティングの授業よりも、授業内容を判り易く思う受講者もおられるようである)。

なお、英文のものを含め㈱日本電気等の実際のアニュアルレポートを配布する予定だが、受講上、特段、英語の読解力は必要とはされない。

## 教科書 /Textbooks

任 章著『アカウンティングと財務諸表分析』第12版 無償頒布  
(ベーシック科目たるアカウンティングの授業で配布したテキストを継続使用します)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ・ (下記、あくまで例示であり、推薦できる会計関連図書は実のところたくさんある)
- 田中建二著『財務会計入門』中央経済社
- あずさ監査法人編『有価証券報告書の見方・読み方』清文社  
(但し授業にては全く用いず、購入は任意である)
- ・ 任章著 (2017)『監査と哲学 - 会計プロフェッションの懐疑心 -』同文館 (会計学の概念と学問的定義、会計学の歴史、会計監査基準の展開、アメリカ会計界のダイナミズム等を知る上で参考にしていただければと思います)

# 財務諸表分析 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ベーシックの「アカウンティング」講座の応用編として、主として以下の如きコンテンツに関わる理解を深め、各々モジュールにして組み立て、財務会計全般の知識の体系化を図る(以下は講義内容の要素を挙げたに過ぎない。特に学期後半に至ってプレゼンテーションの時間を要するため、講義内容や講義順は大きく変わることがある)。

①オリエンテーション：本講座でカバーされる領域と目的、課題等について。財務諸表分析をすることの意義。

【オリエンテーション】

②財務諸表書式の連関関係について：P/LとB/Sの連関。未実現損益の処理と包括利益の表示など。

【財務諸表のフォーマット】

③キャッシュフロー計算書の作成とその分析方法について。

【キャッシュフロー】

④利益操作の意図と報告利益品質について。

【アーニングズ・マネジメント】

⑤SFAS、IFRS等、会計基準(GAAP)の各論について。

【GAAP】【IFRS】

⑥財務諸表分析とその応用：企業価値評価に向けての展望。

【財務諸表分析】

⑦(英文)アニュアル・レポートのコンテキスト、さらには脚注情報の理解。

【アニュアル・レポート】

⑧上場企業に対する制度会計の枠組み、不正の摘発、米国SEC行政処分事例の実際等。

【SEC】

⑨内部統制さらには財務諸表の信頼性保証とリスクについて。

【監査】

⑩バランスシートと会計的論点について(減損会計、時価会計等)。

【B/S イシュー】

⑪P/Lと会計的論点について。

【P/L イシュー】

⑫証券市場規制と企業のディスクロージャー行動について。

【ディスクロージャー】

⑬会計情報と投資意思決定について。

【投資意思決定】

⑭財務諸表分析のWrap-up.

【財務諸表分析】

⑮財務会計の知識のアプリケーションと応用。

【アプリケーション】...以上に代表されるテーマについての理解を、受講者の知識経験のレベルにあわせて深めて行く。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの質(20%程度)、プレゼンテーションへの取組みの積極性やディスカッションに際しての貢献度(20%位)、試験の成績(2回実施で60%位)、等を適宜ウエイト付けし、総合的に100%にして判断します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業内容についての質問は教室のみならず、メールにも随時受け付け、個別に返答、あるいは学内イントラシステムを介して回答します。講義回終了時に可能な限り、次回の範囲を予告します。事前学習は軽く、その該当箇所のコンテンツにイメージを持つ程度で良いでしょう。事後学習は、講義時間中の説明でわからなかったところを教員に質問し、かつ、その後のミニテストに備えて、用語、計算式の両方に習熟しておくことが望まれます。

## 履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度伝えます。毎回配布済プリント等も、忘れず毎回、授業に際し持参してください。簡易な電卓も持参されると良いでしょう。

財務諸表分析の講座ではありますが、計算上の分析にとどまらず、結果的には会計の機能や社会的な役立ちを幅広く俯瞰する科目になります。加えて、可能な限り学期中に1回、他大学の会計系教員による特別ゲスト講演会を実施するよう企画します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員は、履修者が自らの会計的視点を確立するための、ファシリテーターとしての役割を果たします。履修者自身が選んだテーマや企業に関わり、プレゼンテーションをしていただく機会を設けます。ご自身の理解を深めるため、さらに、得られた知識や知見を、教室参加者と広くシェアするために、ぜひ積極的に取り組んでください。

## キーワード /Keywords

上記の中でも特に、GAAP、IFRS、B/S、P/L、キャッシュフロー計算書、財務諸表分析、意思決定、監査、他。

# 人材マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

企業戦略達成に向けた人材マネジメント（人的資源管理・人事労務管理）の実践の基礎を学ぶ。人材マネジメントは、職場レベルでの人材問題の解決というよりも、企業レベルでの人材の活用を志向している。企業の人材マネジメントを構成する採用や評価・報酬、育成といった各機能にまつわる理解を基礎に、それらを結合して企業の人材マネジメントシステムを作り上げるための視点の学習を進めていく。各講義回では、ケースやミニ・ケースをもとに事例分析やケース・ディスカッションを行い、さらには受講生自身の事例発表をもとに、受講生の持つ実務上の疑問を解消するべく、人材マネジメントにまつわる基礎的な諸理論・枠組みの理解と実践力の向上を図る。本講義の到達目標は、人材マネジメントを実践するうえでの基礎的な知識を習得することである。

## 教科書 /Textbooks

適宜、資料を配布するが、参考書にある守島『人材マネジメント入門』と今野&佐藤『人事管理入門<第2版>』を教科書に準じた参考書と位置付けて講義を進める。なお、ケース教材を用いる場合、そのケース代金（1冊千数百円）が追加的に必要になる場合があるので注意されたい。なお、企業の人材マネジメントについての初学者は、参考書のいずれかの通読を強く推奨する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 守島基博『人材マネジメント入門』日経文庫,2004年.
- 高橋俊介『人材マネジメント論 新版』東洋経済新報社,2006年.
- フェファア『人材を活かす企業』翔泳社,2010年.
- 今野浩一郎&佐藤博樹『人事管理入門<第2版>』日本経済新聞社,2009年.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- #1 ガイダンスと戦略的な人材マネジメント（1）【SHRM、戦略人材】
- #2 戦略的な人材マネジメント（2）【SHRM、人材像】
- #3 戦略的な人材マネジメント（3）【人材ポートフォリオ、HRMシステム】
- #4 フロー・マネジメント（1）【採用マネジメント】
- #5 フロー・マネジメント（2）【ハイ・パフォーマー】
- #6 評価・報酬マネジメント（1）【社員格付け制度、職能資格制度】
- #7 評価・報酬マネジメント（2）【能力主義、成果主義】
- #8 評価・報酬マネジメント（3）【インセンティブ、昇進マネジメント】
- #9 評価・報酬マネジメント（4）【評定尺度、行動基準】
- #10 人材育成（1）【OJT、Off-JT、知的熟練】
- #11 人材育成（2）【ジョブ・ローテーション、一皮むける経験】
- #12 フロー・マネジメント（3）【定年、アウトブレースメント】
- #13 労使関係【5factor、集団的労使関係、個別的労使関係】
- #14 戦略的な人材マネジメント（4）【HPWS、パフォーマンス・マネジメント】
- #15 戦略的な人材マネジメント（5）【企業変革、CHO】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度40%、期末レポート60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前学習教材と問いを指定し、事前学習向けに参考図書の記事を指定するので、それらに対する事前学習をしっかりと行うこと。また、講義で理解が進まなかった点について復習を行うことに加えて、発展学習として指定した書籍・論文などを閲覧し、理解をさらに深めることが期待される。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 地域産業【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

日本の高度経済成長を支えてきた様々な地域産業は、時代変化の中で大きく変容している。そのため、地域産業の担い手であった企業、とりわけ中堅・中小企業はその対応追われる状況は長く続いている。そこで、本講義では前半部分で地域産業の変容の実態を概観しながら、これからの新産業を展望し、企業としてやるべき経営革新とは何かを考察する。

また、後半部分では事業創造の手段の1つである「産学連携」に焦点をあてて、産学連携による新事業創造の実際の事例を学びながら、成果をあげるためのマネジメントについて事例を踏まえながら考察する。

なお、本講義の到達目標は、①地域産業の変容を適切に捉えて事業創造のアイデアを生み出すことができる、②将来性があり現実的な産学連携プロジェクトのテーマを探索できる、③有機的かつ実践的なチーム体制を提案できる、である。

## 教科書 /Textbooks

適宜、資料やレポート等をプリントにて配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 中川淳『経営とデザインの幸せな関係』日経BP社
- 田中洋『ブランド戦略全書』有斐閣
- クレイトン・クリステンセン / ジェフリー・ダイアー / ハル・グレガーセン『イノベーションのDNA』翔泳社
- 玉田俊平太『日本のイノベーションのジレンマ』翔泳社
- 伊丹浩敬之『経営戦略の論理』日本経済新聞出版社
- マイケル・E・ポーター『競争戦略I』『競争戦略II』ダイヤモンド社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①地域産業とは？  
【地域における様々な産業の特徴とは：地域産業、地場産業、基盤産業、非基盤産業、クリエイティブ産業、立地戦略】
- ②、③変容する地域産業と時代潮流  
【サービス経済化が進む地域経済：鉄冷え、多角化、サービス産業、IT産業、シェアリングエコノミー】  
【期待される新産業・成長産業の方向性：第4次産業革命、IoT、イノベーション、新産業構造ビジョン】
- ④、⑤地域に根差した産業の可能性と経営革新  
【観光業の可能性：インバウンド、旅館、ホテル、飲食業、エンターテインメント、スポーツ、門司港レトロ、立地】  
【工芸産業の可能性：デザイン、ブランディング、イノベーション、地場産業、産地活性化、小倉織、立地】
- ⑥、⑦地域産業からの新たな事業創造の事例（ゲスト講師を招聘）
- ⑧、⑨クラスターにおけるイノベーション可能性  
【イノベーションとクラスター理論：破壊的イノベーション、持続的イノベーション、競争優位戦略、創新普及】  
【クラスターマネジャーからの示唆：コラボレーション、チームワーク、研究会運営、リーダーシップ】
- ⑩、⑪中小企業による産学連携の落とし穴  
【中小企業H社に係るケースによるディスカッション：人間関係、チームマネジメント、秘密保持契約、情報漏えい】  
【中小企業H社から得る教訓とH社のその後：知財戦略、プロジェクトマネジメント、技術蓄積】
- ⑫、⑬産学連携プロジェクトのプロデュースのポイントと実例  
【イノベーションのためのスキルと人材：ネットワーク力、関連づけ思考、技術者、質問力、観察力、産業政策】  
【産学連携プロジェクト創出の実態：(仮称)植物工場プロジェクト、(仮称)アロマプロジェクト】
- ⑭、⑮産学連携の現実と可能性  
【中堅企業A社に係るケースによるディスカッション：チームマネジメント、事業化、マーケティング、営業】  
【地域事業創造のために：コラボレーション、マーケティング、ブランディング、立地戦略、関連付け思考】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ケーススタディ2回に対する課題レポート (30%×2 = 60%)
- ブランディングに係る課題レポート (20%)
- その他の日常的なディスカッションに係る貢献度 (20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、ブランディングやイノベーションに対する基礎的な知識を習得・確認していることを期待しています。また、ポーターのクラスター論、クリステンセンのイノベーション論の習得をお勧めします。  
事後学習については、講義に活用した資料や参考資料を活用して講義の確認をしてください。

## 履修上の注意 /Remarks

# 地域産業【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地戦略、産業構造、サービス化、ブランディング、コラボレーション、イノベーション、技術革新、創新普及、産学連携、チームマネジメント、クラスター、ビジネスモデル



# 環境ビジネス【夜】

担当者名 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、リサイクルビジネスを中心として環境ビジネスのマネジメントについて学ぶ。第1に経済システムという視点から環境問題や環境行動を考察する。第2に、環境ビジネス分野ごとの動向を把握し、現状分析と課題抽出を行い、その動向を探る。第3に、企業経営において必要とされる環境行動について検討し、分析フレームワークに基づく課題解決のためのプランを検討する。その上で、環境問題の解決に結びつくような具体的なビジネスモデルを検討する。

### DPに基づく到達目標

《高度な専門知識・技能》

環境問題や環境ビジネスに関連する概念や用語を理解できる。

《高い問題解決能力と表現力》

今日の環境問題やその原因を理解し、環境ビジネスのトレンドや課題を的確に指摘することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

環境問題の解決に寄与するビジネスモデルや企業内でのアクションを具体的に提示できる。

## 教科書 /Textbooks

講義は基本的に配布プリントにて行うが、必要に応じて参考文献を指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

小島道一『リサイクルと世界経済』中公新書、2018年。

マイケルE.ポーター、マークR.クラマー「共通価値の戦略」『ダイヤモンドハーバードビジネスレビュー』2011年6月号。

ピーター・レイシー、ヤコブ・ルトクヴィスト『サーキュラー・エコノミー』日本経済新聞出版社、2016年。

そのほか、適宜講義の中で紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【環境ビジネスとは何か】
- ② 環境問題と環境ビジネス  
【環境問題と企業活動の関係を考える】
- ③ 社会システムと環境ビジネス  
【持続可能な発展：市場・行政・社会のシステム】
- ④ リサイクルビジネスの基礎  
【リサイクルビジネスの分野と成長可能性】
- ⑤ リサイクルビジネスの課題  
【リサイクルビジネスの課題とその解決方法】
- ⑥ CSVフレームワークを活用した環境ビジネスの創造  
【CSVとは何か？】
- ⑦ 環境ビジネスにおける顧客創造  
【顧客とは誰か？顧客創造とは何か？】
- ⑧ 環境産業クラスター1  
【環境産業クラスターの現状と課題】
- ⑨ 環境産業クラスター2  
【環境ビジネスにおける戦略とクラスターのCSV】
- ⑩ 現場から考える環境ビジネス1  
【ゲストスピーカーによる講義と議論】
- ⑪ 現場から考える環境ビジネス2  
【ゲストスピーカーによる講義と議論】
- ⑫ 新たな環境ビジネスの創出1  
【市場化されていない環境問題のとりえ方】
- ⑬ 新たな環境ビジネスの創出2  
【環境市場の新規開拓】
- ⑭ 課題発表とディスカッション1  
【課題プレゼンテーションおよびディスカッション】
- ⑮ 課題発表とディスカッション2  
【課題プレゼンテーションおよびディスカッション】

# 環境ビジネス【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度（発言回数、発表内容、建設的な対話など）：60%、事前・事後課題の内容（レポートなど）：40%により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断し、評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回課題を課すので、次回に授業までに準備しておくこと。課題の内容については、次回の授業のための資料の読み込みや論点の整理、あるいは授業で得た知見を活用したレポート作成を予定している。

## 履修上の注意 /Remarks

受講に際しては、一方で環境問題や環境活動に対する固定観念を一度取り払うこと、もう一方で環境問題に関連する社会経済の動向に注意を払うことを求める。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

環境問題、環境ビジネス、リサイクル、エコタウン事業

# 経営倫理と企業法務【夜】

担当者名 /Instructor 梶田 靖子 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

企業を取り巻く法律・法的問題は多岐にわたります。また、企業の健全な発展と成長のためには、企業の利益追求のみならず、CSRやコンプライアンスを意識し、コーポレートガバナンスやリスクマネジメントに留意することが必要です。ビジネス法務の観点からは、紛争やクレーム対応等の臨床法務に留まらず、予防法務や戦略法務を意識することも重要です。そこで、本講義では、ビジネス法務に関する基礎的事項について概括的な解説を行うとともに、企業が直面する様々な法的問題について事例を通して検討し、又は実例をもとに法的観点から検討することにより、経営倫理の観点とともにビジネス法務の問題への適切な対応方を身に付けることを目指します。

## 教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

・高巖著『ビジネスエシックス[企業倫理]』2013年、日本経済新聞出版社  
 ・マックス・H・ベイザーマン著 / 池村千秋 訳  
 『倫理の死角 - なぜ人と企業は判断を誤るのか』2013年、NTT出版  
 ・國部克彦/神戸CSR研究会編著『CSRの基礎』2017年、中央経済社  
 ・中村信男 / 和田宗久著『ビジネス法入門 (第2版)』2017年、中央経済社  
 ・伊藤正己 / 加藤一郎編『現代法学入門』(第4版)2005年、有斐閣双書  
 ・道垣内弘人著『リーガルベシス民法入門』(第3版)2019年、日本経済新聞出版社  
 ・江頭憲治郎著『株式会社法』(第7版)2017年、有斐閣  
 ・弥永真生著『リーガルマインド商法総則・商行為法』(第3版)2019年、有斐閣  
 その他、必要に応じて指定します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 序論 - CSRと経営倫理、企業をとりまく法律【経営倫理とビジネス法務】【全体像】
- ② 企業の種類、機関設計、ステークホルダー【企業概説】
- ③ 私法上の法律関係【私法概説】
- ④ 契約法務(1)【契約と債権法】
- ⑤ 契約法務(2)【契約各論】
- ⑥ 秘密情報管理、知的財産【秘密情報(個人情報を含む)の管理】【知的財産権概説】
- ⑦ 紛争処理【紛争解決の手段と方法】
- ⑧ 企業、役員の実務【役員の実務と責任、損害賠償】
- ⑨ コンプライアンス、危機管理【コンプライアンスと不祥事対応】
- ⑩ M & A/組織再編(1)【M & A/組織再編の種類、法的手続き概要】
- ⑪ M & A/組織再編(2)【M & A/組織再編の方法、ケーススタディ】
- ⑫ ファイナンス【資金調達手段と法】【担保・保証】
- ⑬ 倒産/事業再生【企業の倒産、事業再生の手法】
- ⑭ 演習(1)【ケーススタディ】【グループディスカッション】
- ⑮ 演習(2)【ケーススタディ】【グループディスカッション】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義への取り組み態度(発言・質問・発表を通じた貢献)50%、  
 課題または小テスト30%、  
 演習(発言・提出物の内容)20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回講義に用いる例題や課題を示す場合がありますので、当該例題・課題を次回講義までに事前学習として検討してください。当該課題等について講義内で発表を促す場合もあります。講義後の復習と関連する事例の検討は、各自で行ってください。

## 履修上の注意 /Remarks

法律の予備知識は無いことを前提に基礎的事項の概説も行いますが、講義で学習した内容を実践的に身につけるため、自身の周囲の環境や社会の実例等に照らし、具体的に検討することが重要です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な発言、参加を歓迎します。

# 経営倫理と企業法務 【夜】

## キーワード /Keywords

CSR、SDG s、ESG、コンプライアンス、企業法務、予防法務、戦略法務、バランス感覚

## 消費者行動【夜】

担当者名 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
									○	○		

## 授業の概要 /Course Description

マーケティングが実践段階で躓くことが多いのは、売り手が買い手の特性を正しく理解していないからだと言われています。本講義では、認知心理学や行動経済学の見地から人間の諸特性を概観し、より効果的なマーケティングの実現を目指します。

## 教科書 /Textbooks

講義ごとに資料を紙面配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ・ 松井剛, 西川英彦 (編著) 『1からの消費者行動』中央経済社 2016年 ¥2400 + 税
  - ・ 田中洋 (著) 『消費者行動論』中央経済社 2015年 ¥2400 + 税
  - ・ 杉本徹雄 (編) 『新・消費者理解のための心理学』福村出版 2012年 ¥2600 + 税
  - ・ 山田一成・池内裕実 (編) 『消費者心理学』勁草書房 2018年 ¥2700+税
- 他にも、講義内で適宜紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①消費者行動とその計測・分析手法 【消費者行動とは】【消費者行動の調査・分析手法】
- ②感覚と知覚1【視知覚】【順応】【色覚】【色の心理効果】
- ③感覚と知覚2【感覚と知覚】【錯視】【恒常性】【精神物理学】
- ④多感覚統合と感覚マーケティング【多感覚の統合】【知覚と身体の相互作用】【感覚マーケティング】
- ⑤グループワーク1【感覚知覚と多感覚統合に関するグループワーク】
- ⑥選択的注意【注意の種類】【視覚探索】【注意の存在証明】【注意資源】【注意と表象形成】
- ⑦グループワーク2【選択的注意に関するグループワーク】
- ⑧よさと感性【感性の特性】【感性と知性・理性】【よさとは何か】【よいパターン】【美の法則】
- ⑨ニューロマーケティング【脳のしくみ】【神経伝達物質】【脳機能計測】【脳と消費者行動】
- ⑩記憶【記憶の区分】【忘却】【感情と記憶】【ノスタルジアとレトロマーケティング】
- ⑪説得と態度変容【成功する説得とは】【説得への抵抗】【精緻化見込みモデル】
- ⑫エラーとデザイン【ヒューマンエラー】【アフォーダンス】【シグニファイア】
- ⑬グループワーク3【エラーとデザインに関するグループワーク】
- ⑭行動経済学1【意思決定の理論】【2つの思考システム】【フレーミング】【プロスペクト理論】
- ⑮行動経済学2【選択】【認知バイアスとヒューリスティクス】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義内小レポート(8回)..70%  
グループワーク成果..30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後には、必ず授業の復習をおこなってください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

消費者行動, 行動経済学, 認知心理学

# ベンチャー・ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 剛 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

不確実性が高まっている現代において、新しいことにチャレンジするリスクより、なにもしないことのリスクが高まっています。以前では、就職してしまえば安泰とされていた大手企業の倒産や海外企業による買収、人口減少化での地方自治体の破綻など事例は枚挙にいとまがありません。そのため、大手企業では新規事業、スタートアップとのコラボレーションなどのオープンイノベーション、サラリーマンや学生の間では、起業の機運が高まっています。本講座では、会計やファイナンス、マーケティングなどの専門的な知識の習得ではなく、ビジネスをベースに「まずは行動する」「新しいことにチャレンジする」ことに主眼をおいた講義をやりたいと思っています。対象は、起業希望者に限らず企業勤務者、行政職員でも「新しいことにチャレンジしてみたい」といった意欲がある方であれば大丈夫です。

## 教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布（紙面または電子データ）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

川名和美 + 竹元雅彦『社会人基礎力の養うアントレプレナーシップ』中央経済社2016年2,500円  
磯崎哲也『起業のファイナンス』日本実業出版社2015年2,310円  
忽那憲治『中小企業が再生できる8つのノウハウ』朝日新聞出版2010年1,500円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① オリエンテーション、本講義のねらいと進め方について 【チャレンジ】【100の議論より1つの行動】
- ② アントレプレナーシップ、スタートアップ、新規事業開発について  
【アントレプレナーシップ】【スタートアップ】【オープンイノベーション】【イントレプレナー】
- ③ 事業機会・ビジネスアイデアについて 【事業機会】【ビジネスモデル】
- ④ 事業機会・ビジネスアイデアの発表 【発表およびディスカッション】
- ⑤ 事業機会・ビジネスアイデアの発表 【発表およびディスカッション】
- ⑥ ビジネスモデルについて 【ビジネスモデル】
- ⑦ ビジネスモデルの検討（グループ討議） 【ビジネスモデル】
- ⑧ スタートアップ系のゲストスピーカーの講演・ディスカッション 【スタートアップ】【起業家】
- ⑨ ビジネスモデルについての発表1（中間発表） 【プレゼンテーション】
- ⑩ ビジネスモデルについての発表2（中間発表） 【プレゼンテーション】
- ⑪ 事業計画、資金調達の手段について 【事業計画】【ビジネスプラン】【資金調達】【資本政策】
- ⑫ 事業評価手法について（事業評価手法）
- ⑬ 中小企業新規事業系ゲストスピーカーの講演・ディスカッション 【新規事業】【中小企業】
- ⑭ ビジネスモデルについての発表1（最終発表）
- ⑮ ビジネスモデルについての発表2（最終発表）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% ディスカッション、発表等講義内での取り組み50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必要に応じて事前課題を案内いたします。

## 履修上の注意 /Remarks

エクセル、ワード、パワーポイント等使った資料作成ができること。  
PC、タブレットなど資料作成可能な機器を持参ください。  
また、可能であればスマートフォン等（ネット検索のため）を持参ください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私自身、50歳を目前にVC（ベンチャーキャピタル）を起業しました。本講義では、VC（ベンチャーキャピタル）の視点だけでなく、中小・大手企業、大学の産学連携組織、TLO（技術移転機関）の経営者、上場企業の社外取締役等多彩な社会経験を踏まえ、みなさまに実践的な内容を提供いたします。

# ベンチャー・ビジネス【夜】

キーワード /Keywords

【アントレプレナーシップ】 【新規事業】 【起業】 【起業家精神】 【オープンイノベーション】

# 戦略的提携と事業創造【夜】

担当者名 /Instructor 雨森 良治 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

- ◆M & Aが増加している背景  
2019年1年間の国内M & A件数が過去最高の4,000件超えを記録しました。人口減少フェーズに入った日本では国内マーケット縮小を見越して、大手企業は海外進出へ、中堅企業は国内の基盤強化を目的として、戦略的にM & Aを取り組む傾向が強くなってきている(買い手の増加)のとともに、約400万社あるといわれている国内の企業のうち、後継者がまだ決まっていない企業は全体の約3分の2に、それを理由に休廃業を余儀なくされている企業数は年間約3万社にそれぞれ増えており(売り手の増加)、それら課題を解決するためのM & Aが年々増えているという背景があります
- ◆M & Aは全ての経営者が持つべき戦略ツール  
M & Aはシンプルに言えば、会社を売買する行為ですが、会社を成長させるための買収と会社を次世代に繋げるために大手等に売却の両面があり、どの経営者もその両面を十分理解したうえで経営をすることでよりダイナミックな経営判断、成長戦略をとることが可能になります。理論は最低限おさえつつも、事例や実務面を多く学ぶことで実践的にM & Aを進められるスキルを身につけてもらうことを主眼に授業を展開していきたいと考えております
- ◆M & Aの流れを理解し交渉実務に臨む  
事業承継の検討→企業評価→マッチング→トップ面談→基本合意→買収監査→最終契約・資金決済→PMI、といったM & A全体の流れを把握し、それぞれのステップにおいて留意すべき点を明らかにすることで、M & Aの交渉実務をスムーズに展開できることが本授業の目的となっております
- ◆講師  
2006年よりM & A仲介専門業者にて主に中小企業のM & A支援業務を開始、これまで100件を超える支援実績をあげております。またM & Aに関するセミナー等講演実績も100回を超えており金融機関、会計事務所や商工会議所等依頼元は多岐に亘り実践的でわかりやすい講義内容が好評を得ております
- ◆講義の進め方  
授業の前半40分程度で講師が所見を述べた後、受講者はグループに分かれて自由討議を行います。その後は、グループにて議論して頂いた結果発表と講師が解説並びに評価を行います

## 教科書 /Textbooks

資料を都度事前に準備します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

河合雅司「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること」講談社現代新書  
 三戸政和「サラリーマンは300万円で小さな会社を買いなさい」講談社+α新書  
 久米雅彦「中小企業M & Aにおける財務デューデリジェンスのすべて」きんざい  
 デービッドアトキンソン「日本人の勝算 人口減少×高齢化×資本主義」東洋経済新報社  
 渡辺恒郎「業界メガ再編で変わる10年後の日本」東洋経済新報社  
 竹林信幸「日本型PMIの方法論-中堅・中小企業を成長させるポストM&Aのプロセス」プレジデント社



# 戦略的提携と事業創造【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### 概論

- 1回 M & A 概論～大企業と中小企業のM & Aの違い～
- 2回 事業承継概論～増え続ける後継者不在企業、大廃業時代に備える事業承継～
- 3回 成長戦略概論～増加傾向にある成長戦略型M & Aについて～
- 4回 相乗効果の研究～M & Aによる相乗効果・組み合わせのパターンを理解する～

### プロセス

- 5回 M & Aの交渉の流れ～マッチング・トップ面談から基本合意、監査、最終契約の流れの理解～
- 6回 買収監査～会計、税務、法務、労務面から見た企業調査の概要～
- 7回 企業価値評価～企業の株価を決めるためのアプローチ法を学ぶ～
- 8回 株式譲渡契約の条項～M & Aに必要な契約書の内容、表明保証など各条項を理解する～
- 9回 株式譲渡以外のスキーム～企業結合の種類や具体的内容を理解する～
- 10回 PMI～M & Aの成否を分ける買収後の融合実務～

### ケーススタディ

- 11回 業界再編のケーススタディ
- 12回 異業種のケーススタディ
- 13回 買収サイドの意思決定
- 14回 売却サイドの意思決定
- 15回 講義のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 日常の授業への取り組み50%
- ② レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください  
(必要な学習時間の目安は、予習60分・復習60分程度です)

## 履修上の注意 /Remarks

- ① 簿記の理解が前提となりますので、希望者には別途補講を行う予定です
- ② 財務分析・企業評価や戦略立案の演習を行いますので、ご自身が所属する企業の財務諸表 (BS、PL、CS等) 及び事業計画 (中期経営計画等あれば) をご準備ください
- ③ 発表はPPを利用頂きます。プレゼンの練習を兼ねますので、企業のIR資料等ビジュアルに訴求力のあるものをいくつかピックアップしておいてください

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出来るだけ実践に近い講義内容にしますので、受講後すぐに使える場面を想定しながら講義に臨んでください

## キーワード /Keywords

M & A、事業承継、業界再編、成長戦略、株式価値評価

# フィナンシャル・インベストメント【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

さまざまな金融商品のリスク・リターン特性、証券市場の価格決定メカニズムを学んだうえで、ポートフォリオの運営やデリバティブの活用方法などについて実例を交えながら学ぶ。具体的には、金融・証券市場、投資の基本概念、債券投資、株式投資、効率的市場と行動ファイナンス、現代ポートフォリオ理論、デリバティブなどについて、実例を通して学び、自ら分析できるようにする。そして、分析手法をケース・スタディに応用して、実践的な分析力を養い、適切な経営判断ができるようにする。

到達目標は以下のとおり。①投資の基本概念を理解し、投資分析ができるようになる、②ポートフォリオ理論を理解し、証券データを使って分析できるようにする、③デリバティブの仕組みと利用法を理解する。

## 教科書 /Textbooks

ブリーリー&マイヤーズ&アレン(著) 藤井真理子・国枝繁樹(監訳)(2014年)『コーポレート・ファイナンス(第10版) 上』、『同 下』 日経BP社

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- ボディ&マートン&クリートン(著) 大前恵一郎(訳)(2011年)『現代ファイナンス論 原著第2版』ピアソン
- 三井住友信託銀行マーケット事業(2016)『第6版 投資家のための金融マーケット予測ハンドブック』NHK出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション 【ファイナンス】
- ② 金融市場と金融資産  
【市場】【債券】【株式】【派生商品】【機関投資家】
- ③ 投資の基本概念  
【現在価値分析】【投資収益率】
- ④ 債券投資分析(1) 債券の評価  
【最終利回り】【債券価格】【イールド・カーブ】
- ⑤ 債券投資分析(2) 債券のリスク  
【デュレーション】【金利リスク】【信用リスク】
- ⑥ 株式投資分析(1) 普通株式の価値  
【株価】【代表的指標】【配当割引モデル】【ゼロ成長モデル】【定率成長モデル】
- ⑦ 株式投資分析(2) 普通株式の価値  
【利益と投資機会】
- ⑧ 効率的市場と行動ファイナンス(1)  
【効率的市場】【アノマリー】【市場の効率性】
- ⑨ 効率的市場と行動ファイナンス(2)  
【行動ファイナンス】【裁定取引】
- ⑩ ポートフォリオ理論(1) リスクとリターン  
【収益率】【分散】【標準偏差】【分散投資のリスク軽減効果】
- ⑪ ポートフォリオ理論(2) CAPM(資本資産評価モデル)  
【資本市場線】【効率的フロンティア】【証券市場線】
- ⑫ ポートフォリオ理論(3) ケース・スタディ
- ⑬ デリバティブ(1) オプション  
【コール・オプション】【プット・オプション】【オプションの価値】
- ⑭ デリバティブ(2) オプションの価値評価  
【二項モデル】【ブラック=ショールズ・モデル】
- ⑮ デリバティブ(3) リアル・オプション

## 成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの貢献度 30パーセント  
 課題の提出 70パーセント  
 ※学生が授業に出席することは前提のため、欠席はマイナス評価となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本経済新聞を購読して、ファイナンスの知識を活かし自分の考えを持って批判的に読んでください。  
 課題をすらすら解けるようになるまで復習してください。

## 履修上の注意 /Remarks

「ファイナンス」を履修しておくこと。  
 「ファイナンス」で学んだ知識と分析能力はこの科目の前提となるので、復習しておくこと。

# フィナンシャル・インベストメント 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 中国ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 迫 和男 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	◎ 中国ビジネスに関連する専門的知識を身につける。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 中国ビジネスを事業の成長につなげる視点を身につける。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	○ 中国市場の特性やビジネス習慣を理解し、国際的にビジネスを推進できる。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

中国ビジネス

## 授業の概要 /Course Description

GNPで米国に次ぐ世界第二位となった中国はもはや新興市場の域を脱し次の段階に入りつつある。それに伴い世界への生産基地としての輸出国から、膨大な需要を抱えた新興巨大マーケットとして発展している。世界の生産基地として主要市場である米国、欧州の政治的な動向により大きく左右される状況となりつつある。また、コスト面では東南アジア諸国の追い上げも激しい。また巨大マーケットとしては歴史的な発展の時間軸を大きく短縮し、従来のルートビジネスを追い越す勢いでインターネットビジネスの発展が著しい。この授業では、ますます盛んになる中国での地産地消、また今後重要となる世界の主要国と中国との関係、特に米中関係を意識しつつグローバルビジネスの展開の仕方を議論していきたいと思う。

## 教科書 /Textbooks

特に設定はしない。  
 必要に応じてプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

事例に関する図書を授業で紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション 【内容構成】【進行法】
- 2 中国事業の歴史と展開【合併事業】【ウオッシュレットの展開】
- 3 米国その他の海外事業の歴史と展開【ビジネスモデル】【国際事業戦略】
- 4 国際事業組織論 【集権・分権】【意思決定】
- 5 人材マネジメント 【人事の現地化】【モチベーションシステム】
- 6 マーケティング 【デジタルマーケティング】【差別化】
- 7 販売戦略 【消費者心理】【中間層】
- 8 サプライチェーン 1 【垂直統合】【水平統合】
- 9 サプライチェーン 2 【バリューチェーン】【OEM】
- 10 事例研究1 【中国パートナー】
- 11 事例研究2 【米国パートナー】
- 12 ブレーンストーミング 1 【4ルール、3ポイント】【テーマ設定】
- 13 ブレーンストーミング 2【実践討議】【課題評価】
- 14 危機管理【知的財産】【カントリーリスク】
- 15 まとめ 【総合討議】

# 中国ビジネス 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

1. 授業への参加姿勢 ( 30% )
  2. 課題に対するレポート ( 40% )
  3. 授業中の課題に対する回答の考え方 ( 30% )
- 上記 1 ~ 3 を基に総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にプリントを配布するので事前学習として読み込んで来る事。  
事後については課題に対するレポートの提出。

## 履修上の注意 /Remarks

中国ビジネスに関する知識の有無は前提としない。  
グローバルビジネスの感覚を身に付けようとする意欲は必要。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

中国ビジネス、国際ビジネス、グローバル

# 医療マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 石井 義輝 / ISHII Yoshiteru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

医療従事者養成、医療保険制度、医療機関経営、医療者-患者関係などのトピックにつき、実務経験に基づいた講義を行い、より良い医療機関と地域社会の良好な関係構築に寄与するために必要な知識と実践能力の習得を目指す。

## 教科書 /Textbooks

講義ごとに資料を配付する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

島崎謙治『日本の医療 制度と政策』東京大学出版会，2011年  
 橋本英樹/泉田信行『医療経済学講義 補訂版』東京大学出版会，2016年  
 本間正明監修『医療と経済』大阪大学出版会，2016年  
 二木立『医療経済・政策学の探究』勁草書房，2018年  
 その他、履修選択者のバックグラウンドや興味に応じて適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のテーマに沿った講義とディスカッションを行っていく  
 なお、①～⑩については、履修選択者の背景等に応じて順序を変更する場合がある。  
 また、テーマによっては外部講師による講義に振り替える場合がある。

- ①導入 医療マネジメント概論  
「医療マネジメント」の意味するところ、講義全体の概観について解説する。
- ②日本の医療システムの歴史的概観  
さまざまな社会システムは過去からの積み重ねの結果であるため、日本の医療システムが特に近現代においてどのように変化してきたのかについて解説する。
- ③国民医療費と診療報酬制度  
40兆円を超える国民医療費の内訳、その負担と給付の仕組み、さらに診療報酬制度について解説する。
- ④医療従事者育成の実態  
医療従事者、特にその中核を担う医師がどういった過程で育成されるのか、さらに他の医療従事者の育成過程について解説する。
- ⑤医療機関の組織・人材管理  
多くの専門職種から構成される医療機関（特に病院）における組織管理・人材管理の特殊性について解説する。
- ⑥医療機関の経営戦略  
厳しくなる一方の環境の中で、各医療機関や地域としてどのように医療を守り支えていくかについて解説する。
- ⑦医療機関の財務管理  
個々の医療機関ベースの財務管理（費用管理と資金調達）の現状と将来に向けた課題について解説する。
- ⑧医療マーケティング  
⑧広報とブランディング  
患者のみならず地域住民、さらには勤務する医療従事者に向けた望ましいマーケティング活動とこれを支える広報活動について解説する。
- ⑩医療者-患者関係  
行動経済学の観点から、両者の関係をより良いものにするためにはどういったことが必要かについて解説する。
- ⑩医療と介護の連携  
今後の社会構成を考えた場合、医療と介護は不可分であることから、介護保険制度の概観および医療との連携について解説する。
- ⑩日本の医療はそんなに悪いのか-諸外国との比較-  
国民の満足度は決して高くない日本の医療であるが、諸外国との比較においてどういった現状なのかについて解説する。
- ⑩医療の将来  
ロボットやAI、再生医療といった新規技術の可能性、人口減少社会における医療のあり方について解説する。
- ⑩総合討論1（課題レポート発表）  
⑩総合討論2（課題レポート発表）  
各人の作成したレポートを発表、互いの問題意識を共有する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート70%、講義への貢献度（発言回数、内容）30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テーマに応じて読んで欲しい文献、書籍等を適宜指示する。

# 医療マネジメント【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

医療に関する新聞記事やニュース（政策、新技術・サービス、新製品）に敏感になること  
厚生労働省はじめ、関連するサイトで情報収集すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

医療サービスを実践するのはそれぞれの専門職種ではありますが、現在では受益者である患者・利用者、さらにはその家族も含めた協働作業で営まれるべきであると考えられています。したがって、そのマネジメントもすべてのひとびとで考えていく必要があると考えます。患者になってからではなく、患者になる前から医療について考え、望ましい医療との関係を構築することが、地域医療を変えていく第一歩になると考えます。より実りあるディスカッションができるよう、医療関連業種のみならず、幅広いバックグラウンドを持つ学生の受講を歓迎します。

## キーワード /Keywords

医療経営、医療経済、社会保障、地域医療、医療者-患者関係

# 福祉マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 垣迫 裕俊 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

福祉マネジメントとは、「福祉関係諸事業において、ニーズをもつ個人のよりよい生活を実現し、各事業主体（営利企業、社会福祉法人、行政、NPO、地域、専門職等）が、それぞれの持続性を確保しながら事業目標を達成し、あわせて事業実施を通して社会に貢献するために、自らのもつ経営資源と外部資源を活かし適切に管理・運営する活動」と定義できます。

福祉マネジメントは、①福祉政策を立案・決定する立場、②事業・施設を運営する立場、③現場で実践する個人の立場などからの多面的・総合的なアプローチが必要です。

本授業では、北九州市議会での実際の議論を題材に、主として①の「政策立案・決定」の観点から、さまざまな具体的課題について学びます。また授業には現場の第一線で活躍している実務者をゲストとして招くことを予定しています。多様なバックグラウンドを持つ受講生の積極的な情報提供・議論への参加を期待しています。

## 教科書 /Textbooks

適宜、資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ・ 山崎史郎 (2017) 『人口減少と社会保障』中公新書
- ・ 橋本俊詔 (2010) 『日本の教育格差』岩波新書
- ・ 杉山登志郎 (2018) 『子育てで一番大切なこと』講談社現代新書
- ・ 阿部彩、鈴木大介 (2018) 『貧困を救えない国日本』PHP新書
- ・ 湯浅誠、泉房穂 (2019) 『子どもが増えた！明石市人口増・税収増の自治体経営』光文社新書
- ・ 中島隆信 (2018) 『新版 障害者の経済学』東洋経済新報社
- ・ 渡辺一史 (2018) 『なぜ人と人は支え合うのか』ちくまプリマー新書
- ・ 増田幸弘ほか編著 (2018) 『変わる福祉社会の論点』信山社
- ・ 吉川洋、八田達夫 (2017) 『「エイジノミクス」で日本は蘇る』NHK出版新書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	イントロダクション	【福祉マネジメントにおける論点】
2回	人口減少と社会保障	【人口減少・超高齢化と福祉政策】
3回	公的扶助	【生活保護、生活困窮者支援】
4回	高齢者と福祉	【社会参加、生活支援】
5回	教育と福祉 (1)	【学力と家庭】
6回	教育と福祉 (2)	【学校における福祉・心理専門職】(ゲストレクチャー)
7回	教育と福祉 (3)	【特別支援教育】
8回	子どもと福祉 (1)	【子どもの貧困と居場所】
9回	子どもと福祉 (2)	【社会的養護と虐待】(ゲストレクチャー)
10回	障害者福祉 (1)	【障害者支援制度】
11回	障害者福祉 (2)	【就労支援、雇用促進】
12回	障害者福祉 (3)	【差別解消法と合理的配慮】(ゲストレクチャー)
13回	SDGsと福祉 (1)	【SDGsとは何か】
14回	SDGsと福祉 (2)	【誰が取り残される(かもしれない)のか～社会的側面のゴールを中心に】
15回	振り返り	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(議論への積極的参加度)...50% 期末レポート...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、次回の講義資料を配布しますので、事前に読んでおくこと

## 履修上の注意 /Remarks

なるべく最新的话题をとりあげます。担当教員自身が未経験のチャレンジな話題もありますので、受講生と一緒に議論し学び合いたいと思います。受講生が詳しい知見を持つ分野については、積極的な資料・情報提供を期待します。

受講生の関心度合いに応じて、内容を変更することがあります。

「社会保障」(1年後期)、「医療・福祉・教育の現場」(2年後期)とあわせて履修することでより理解が深まるでしょう。



# 福祉マネジメント【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

市議会という場で議員が提起するテーマは、その背景に多くの市民の多様なニーズと現実的課題が潜んでいます。一方、政策立案・実施にあたる行政側にもさまざまな事情・考え方があります。両者の中で議論される内容を学ぶことは、福祉課題の実際的な解決に向けて有用と考えます。

## キーワード /Keywords

福祉政策、貧困の再生産、教育格差、児童虐待、社会的養護、合理的配慮、障害者差別、司法福祉、SDGs

# 自治体政策【夜】

担当者名 /Instructor 幕 亮二 / Ryoji Maku / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

確実な将来である超高齢化社会が、他国に先駆け急速なスピードで訪れる我が国は、「課題先進国」とも呼ばれていますが、地域が抱える課題は共通する部分も多いですが、基本的には千差万別です。よって、人口減少（オーナス）時の地域政策は、国や自治体任せでなく、住民や企業が生活や活動の場である地域とどのように関わり続け得るか、持続可能な仕組み（スキーム）と課題解決の処方箋（施策・事業等）について、各地域で議論を尽くし合意形成することが重要です。

本講では、予期し共有することが可能な確実な将来予測と影響をベンチマークとして、コントロールし得るリスクを如何に（誰が・どのように）マネジメントすることが適切か、生活（いとなみ）と事業（なりわい）の「現場」である「地域」が抱える課題と解決策について、講師と受講者含めた講座全員でのディスカッションを通じ学びます。

## 教科書 /Textbooks

授業毎にレジメを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

次回講義のディスカッション・テーマに関する参考書やURLを、授業各回終了後にリストで配布します。  
 ディスカッションの基本である、多面的な視点・意見の尊重を学ぶ参考書としては、下記両著ご参照ください。  
 「地方消滅 東京一極集中が招く人口急減」増田寛也編著,中公新書  
 「地方消滅の罫「増田レポート」と人口減少社会の正体」山下祐介著,ちくま新書

# 自治体政策【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①ガイダンス（講義の全体構成・進め方の説明）  
都市と地域形成の歴史的背景と地域政策の変遷を振り返り、地域政策の全体体系を学びます。  
【都市と地域】【我が国における国土・地域政策の変遷】【地方創生】
- ②サステナビリティ（持続可能性）  
中長期的に確実に訪れる未来（超高齢化社会、気候変動等）が、地域にもたらす影響（財政、担い手、環境、安全安心）を整理し、政策課題と地域政策を考える際の枠組みを学びます。  
【2025年問題 / 2040年問題】【コンパクトシティ】【インフラメンテナンス】
- ③ディスカッション1（サステナビリティ（持続可能性））  
不確実な未来（グローバル化・技術革新等）が、地域にもたらす影響と政策課題について考えます。  
【ダイバーシティ】【IoT（Internet of Things）】【AI（Artificial Intelligence）】
- ④アカウンタビリティ（説明責任）  
行政評価・事業評価におけるPDCAの手続きとその導入・発展過程について学びます。  
【事前・事後評価】【NPM（New Public Management）】【パブリックインボルブメント】
- ⑤ディスカッション2（アカウンタビリティ（説明責任））  
将来にわたって持続可能な地域経営を行うに当たり、世代間負担に関する説明責任と合意形成をどのように進めていくべきかについて考えます。  
【政策形成過程】【多世代交流】【温暖化対策】
- ⑥クリエイティビティ（稼ぐ力）  
RESASデータや地域間産業連関表の概念と活用方法、基盤産業の定義や地域の産業構造の把握方法について学びます。  
【基盤産業と非基盤産業】【特化係数】【産業構造】
- ⑦ディスカッション3（クリエイティビティ（稼ぐ力））  
統計データを実際に扱い、時系列・他地域との比較を行い、地域の産業構造の変遷と企業誘致等産業立地政策の効果等について考えます。  
【生産性と雇用創出（吸収）力】【純移輸出】【企業城下町と産業クラスター】
- ⑧PPP / PFI（官民連携）  
導入の背景と適用範囲の拡大（コンセッション等）について、海外及び我が国の動向について学びます。  
【VFM（Value for Money）】【改正PFI法】【コンセッション】
- ⑨ディスカッション4（PPP / PFI（官民連携））  
主な失敗事例をケースに、官民双方のリスクと今後の方向性について考えます。  
【PFI推進委員会とコンセッション検証会議】【空港民営化】【PPPプラットフォーム】
- ⑩コミュニティ（まちづくり・ひとづくり）  
多世代交流と共助を促進するための、組織や拠点のあり方に関する論点を整理します。  
【生涯活躍の街 / CCRC（Continuing Care Retirement Community）】【地域福祉】
- ⑪ディスカッション5（コミュニティ（まちづくり・ひとづくり））  
地域活動の担い手を育成し、持続可能なコミュニティの再生を図るための、直接・間接的な施策について考えます。  
【多世代包括支援】【CSO（市民社会組織：Civil Society Organization）】
- ⑫モビリティ（移動・交通の自由と安全・安心）  
人口減少・高齢化の進展に対応した、安全・安心な地域づくりを目指すコンパクトシティと公共交通再生に関する論点・施策を整理します。  
【規制緩和】【コンパクトシティ】【Maas（Mobility As A Service）】
- ⑬ディスカッション6（モビリティ（移動・交通の自由と安全・安心））  
高齢社会における移動権及び安全の確保に資する、まちづくりや地域福祉等他の政策との連携や相乗効果について考えます。  
【交通政策基本法】【移動支援サービス】【自動運転】
- ⑭ブランドエクイティ（地域の誇りを資産にするマーケティング）  
シティプロモーションや観光地域振興、ふるさと納税を契機とする特産品開発等の取り組みについて整理します。  
【DMO（Destination Management Organization）】【ふるさと納税】
- ⑮ディスカッション7（ブランドエクイティ（地域の誇りを資産にするマーケティング））  
地域ブランドを持続可能な地域づくりに活かすための施策について考えます。  
【地域ブランド】【郷土愛の醸成】【生涯学習】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のディスカッションへの貢献度（50%）と、全7回のディスカッションに関するレポート（50%）をもとに総合的に評価します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業各回終了後、次回講義のディスカッション・テーマに関して、参考書やURL等のリストを配布しますので、参照・予習して講義に参加してください。

## 履修上の注意 /Remarks

隔週2コマ講義ですので、前半は座学講義、後半は特定テーマに関して、出席受講者全員によるディスカッションを、講師がファシリテーターになり行います。受講者の積極的な参加を期待します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ディスカッションで大切な技術は、「聞く・聞き出す」力です。議論を通じて、相手だけでなく自分の意見や考え方を自問していく過程を楽しみましょう。

## キーワード /Keywords

# 自治体政策 【夜】

## キーワード /Keywords

持続可能社会 地域経営 合意形成 事業創出 官民連携

# モノづくり競争力の強化【夜】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

100年に1度といわれる、自動車業界の大変革に当たって、トヨタのモノづくりの根底を支えてきた「トヨタ生産方式」であるが、そのカイゼン活動から生まれる数多くのシーズを、その組織内だけにとどまらず、変革する市場を睨み、スタートアップやベンチャーに繋げる。効率化と成長を同時に成立させる、真の自工程完結を計るべく、「新(進)トヨタ生産方式」を解説し、同時に、具体的な問題解決能力の向上を目指す。また、後半では、「ボードゲームのカイゼン&創作」を例題に取り上げて、アクティブラーニングによるチームによるワーク形式を採用入れ、より実践的な課題解決&創造性を身につける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ① 雨澤政材(あめざわまさもと)著 「トヨタで学んだ工場運営」 日刊工業新聞社 2014年 ¥2200+税
- ② トム・ヴェルネック著 「ボードゲーム デザイナー ガイドブック」 スモール出版 2018年 ¥2200+税

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① トヨタ生産方式概論...  
【生まれた背景、特徴、基本的手法進化するトヨタ生産方式 カイゼンからスタートアップへ】
- ② マーケティングから企画/開発~製造/販売まで...【車の開発及び生産・販売手法】
- ③ KAIZEN(カイゼン)活動...【実例を挙げてそのポイントを解説】
- ④ KAIZEN(カイゼン)を支えるSQC(統計的品質管理)...【TQMの中のSQCの役割】【基本統計量:統計学の基礎】  
(どうして統計的考え方が必要か、正規分布、サンプリング、平均値、標準偏差、確率など)
- ⑤ 公差累積法と工程能力/管理図...  
【アッセンブリ(組立)時の公差の見積もり法と工程が成立しているかの見極めと日常管理(未然防止活動)】
- ⑥ 検定・推定...【u検定、t検定、x<sup>2</sup>検定】F検定 他】
- ⑦ 配置実験...【分散分析、1元配置法、2元配置法、他】
- ⑧ 中間の小テスト実施&解答/解説...【トヨタ生産方式&TQM&SQCの理解の定着を目的】
- ⑨ ボードゲームKAIZEN演習(1)【準備...グループ分け・既存ゲームのルール習得】
- ⑩ ボードゲームKAIZEN演習(2)【企画・評価...カイゼン点の抽出、ルール改良】
- ⑪ ボードゲームKAIZEN演習(3)【まとめ...改良版ゲームの実施及び結果確認】
- ⑫ ボードゲーム創作演習(1)【準備:チームディスカッション】
- ⑬ ボードゲーム創作演習(2)【企画:ストーリー作成と分担・細部デザイン・全体整合性】
- ⑭ ボードゲーム創作演習(3)【製作・実施】
- ⑮ ボードゲーム創作演習(4)【評価・まとめ...ルールブック作成】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間の小テスト ...30%(個人評価)  
 授業への取組み ...20%(個人評価)  
 創作ボードゲームのルールを作成し、ルールブック(A4で2枚程度)を提出。  
 (基本、各チーム(3~4名)で分担を決めてのチーム毎での作成) ...50%(チーム評価)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲での予習を、参考書等を使って実施し、また授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

## 履修上の注意 /Remarks

講義の前半には、統計学の基礎が理解できていることが必要な部分が多くなります。数学が苦手な方は、事前に、ある程度勉強しておくことを薦めます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

後半からの授業は、アクティブラーニングとなっております。受講生間の積極的なディスカッション、リーダーシップ&フォロアーシップの発揮等の主体的な学びを期待します。

# モノづくり競争力の強化【夜】

## キーワード /Keywords

トヨタ生産方式、TQM ( 総合的品質管理 )、SQC ( 統計的品質管理 )、KAIZEN(カイゼン)、スタートアップ、ベンチャー

# ソーシャル・ビジネス【夜】

担当者名 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

近年、社会的課題をビジネスのスキームを用いて解決しようとする「ソーシャルビジネス」への期待が高まっている。本講義では、ソーシャルビジネスのマネジメントについて学ぶ。具体的には、解決すべき社会的課題の設定からビジネスモデルの作成までを事例やケース分析などを通じて学習する。講義では、実際にソーシャルビジネスを立ち上げ運営していくことを想定したディスカッションやワークショップを中心に進める。各自の問題意識や関心に沿ってソーシャルビジネスプランを策定することが、本授業のゴールである。

### DPに基づく到達目標

《高度な専門知識・技能》

ソーシャルビジネスに関連する概念や用語を理解できる。

《高い問題解決能力と表現力》

自らの問題意識に基づき社会課題を抽出し、その解決策=ビジネスモデルを構築できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

ソーシャルビジネスモデルを実現するための手順を組み立てることができる。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 駒崎弘樹 『「社会を変える」を仕事にする』ちくま文庫、2011年。
- 小暮真久 『「20円」で世界をつなぐ仕事』日本能率協会マネジメントセンター、2009年。
- 上阪徹 『「カタリバ」という授業』英治出版、2010年。

その他の文献については、講義のなかで紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【本講義のねらいと進め方の説明、ソーシャルビジネスとは何か？】
- ② ソーシャルビジネスの事例から学ぶ 1  
【事例分析を通じソーシャルビジネスの活動領域や特色について検討する】
- ③ ソーシャルビジネスの事例から学ぶ 2  
【成功したソーシャルビジネスの共通点を探る】
- ④ ミッションをつくる 1 (ケースメソッド)  
【社会的課題の抽出と発見の手法】
- ⑤ ミッションをつくる 2 (ケースメソッド)  
【社会的課題を解決するスキーム】
- ⑥ 事業をつくる 1 (ケースメソッド)  
【ソーシャルビジネスの事業構造】
- ⑦ 事業をつくる 2 (ケースメソッド)  
【ソーシャルビジネスにおけるビジネスモデルの特徴】
- ⑧ ソーシャルビジネスの現場から考える 1  
【ゲストスピーカー講義】
- ⑨ ソーシャルビジネスの現場から考える 2  
【ゲストスピーカー講義】
- ⑩ 中間発表とふりかえり 1  
【解決すべき社会課題の設定とミッションの策定】
- ⑪ 中間発表とふりかえり 2  
【ミッションを実現するための戦略と事業】
- ⑫ チームをつくる 1 (ケースメソッド)  
【社内チームと社外協力者をいかにつくるか】
- ⑬ チームをつくる 2 (ケースメソッド)  
【顧客を協力者に変換し、ソーシャルイノベーションを創出する方法】
- ⑭ ソーシャルビジネスプラン・プレゼンテーション 1  
【プレゼンテーションとディスカッション】
- ⑮ ソーシャルビジネスプラン・プレゼンテーション 2  
【プレゼンテーションとディスカッション】

## ソーシャル・ビジネス【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度（発言回数、発表内容、建設的な対話など）：60%、事前・事後課題の内容（レポートなど）：40%により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断し、評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回事前課題を課すので、次回に授業までに準備しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、社会課題、NPO、CSR、CSV



# 医療経済【夜】

担当者名 石井 義輝 / ISHII Yoshiteru / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

医療従事者養成、医療保険制度、医療機関経営、医療者-患者関係などのトピックにつき、実務経験に基づいた講義を行い、より良い医療機関と地域社会の良好な関係構築に寄与するために必要な知識と実践能力の習得を目指す。

## 教科書 /Textbooks

講義ごとに資料を配付する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

島崎謙治『日本の医療 制度と政策』東京大学出版会，2011年  
橋本英樹/泉田信行『医療経済学講義 補訂版』東京大学出版会，2016年  
本間正明監修『医療と経済』大阪大学出版会，2016年  
二木立『医療経済・政策学の探究』勁草書房，2018年  
その他、履修選択者のバックグラウンドや興味に応じて適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のテーマに沿った講義とディスカッションを行っていく  
なお、①～⑩については、履修選択者の背景等に応じて順序を変更する場合がある。  
また、テーマによっては外部講師による講義に振り替える場合がある。

- ①導入 医療マネジメント概論  
「医療マネジメント」の意味するところ、講義全体の概観について解説する。
- ②日本の医療システムの歴史的概観  
さまざまな社会システムは過去からの積み重ねの結果であるため、日本の医療システムが特に近現代においてどのように変化してきたのかについて解説する。
- ③国民医療費と診療報酬制度  
40兆円を超える国民医療費の内訳、その負担と給付の仕組み、さらに診療報酬制度について解説する。
- ④医療従事者育成の実態  
医療従事者、特にその中核を担う医師がどういった過程で育成されるのか、さらに他の医療従事者の育成過程について解説する。
- ⑤医療機関の組織・人材管理  
多くの専門職種から構成される医療機関（特に病院）における組織管理・人材管理の特殊性について解説する。
- ⑥医療機関の経営戦略  
厳しくなる一方の環境の中で、各医療機関や地域としてどのように医療を守り支えていくかについて解説する。
- ⑦医療機関の財務管理  
個々の医療機関ベースの財務管理（費用管理と資金調達）の現状と将来に向けた課題について解説する。
- ⑧医療マーケティング  
⑧広報とブランディング  
患者のみならず地域住民、さらには勤務する医療従事者に向けた望ましいマーケティング活動とこれを支える広報活動について解説する。
- ⑩医療者-患者関係  
行動経済学の観点から、両者の関係をより良いものにするためにはどういったことが必要かについて解説する。
- ⑩医療と介護の連携  
今後の社会構成を考えた場合、医療と介護は不可分であることから、介護保険制度の概観および医療との連携について解説する。
- ⑩日本の医療はそんなに悪いのか-諸外国との比較-  
国民の満足度は決して高くない日本の医療であるが、諸外国との比較においてどういった現状なのかについて解説する。
- ⑩医療の将来  
ロボットやAI、再生医療といった新規技術の可能性、人口減少社会における医療のあり方について解説する。
- ⑩総合討論1（課題レポート発表）  
⑩総合討論2（課題レポート発表）  
各人の作成したレポートを発表、互いの問題意識を共有する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート70%、講義への貢献度（発言回数、内容）30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テーマに応じて読んで欲しい文献、書籍等を適宜指示する。

# 医療経済【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

医療に関する新聞記事やニュース（政策、新技術・サービス、新製品）に敏感になること  
厚生労働省はじめ、関連するサイトで情報収集すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

医療サービスを実践するのはそれぞれの専門職種ではありますが、現在では受益者である患者・利用者、さらにはその家族も含めた協働作業で営まれるべきであると考えられています。したがって、そのマネジメントもすべてのひとびとで考えていく必要があると考えます。患者になってからではなく、患者になる前から医療について考え、望ましい医療との関係を構築することが、地域医療を変えていく第一歩になると考えます。より実りあるディスカッションができるよう、医療関連業種のみならず、幅広いバックグラウンドを持つ学生の受講を歓迎します。

## キーワード /Keywords

医療経営、医療経済、社会保障、地域医療、医療者-患者関係

# 社会保障【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

社会福祉から公衆衛生までの幅広い領域にわたる社会保障の制度や仕組みは、社会通念や人口構成、経済成長、グローバル化、生活環境、格差などの文化的、社会的、政治経済的な状況によって形づくられ、変化していきます。人間や社会とは何かという根源的な問いを原点に社会保障の概念を整理し、制度についての理解を深めるとともに、社会保障に関する事業やリスクのマネジメント、地域包括ケアなど、社会保障をより良く運営する方法について考えていきます。また、超少子高齢・人口減少社会の到来は、社会保障制度に影響を及ぼすだけでなく、産業社会の在り方を変え、企業の経営環境を激変させています。本講座では、人口構造や産業構造と社会保障制度、さらには企業経営との相関について総合的に考察することも視野に入れていきます。

## 教科書 /Textbooks

適宜、資料を配付します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- ・ 棕野美智子、田中耕太郎著『はじめての社会保障—福祉を学ぶ人へ—』有斐閣アルマ
- ・ 香取照幸『教養としての社会保障』東洋経済新報社
- ・ 広井良典著『定常型社会 新しい「豊かさ」の構想』岩波新書
- ・ 広井良典著『日本の社会保障』岩波新書
- ・ J・K・ガルブレイス『ゆたかな社会』岩波現代文庫
- ・ 立川昭二著『病気の社会史』岩波現代文庫

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- |                   |                              |
|-------------------|------------------------------|
| ① 社会保障の概念と歴史      | 【社会保障、ヒト、社会とは何か】             |
| ② 社会保障制度の基礎知識     | 【現行制度や法令の体系と専門用語、事業主体、財政】    |
| ③ 社会保障制度改革の概要と課題  | 【社会福祉基礎構造改革、社会保障と税の一体改革】     |
| ④ 社会保障と地域づくり      | 【地域包括ケアの概念と実践】               |
| ⑤ グループ討議          | 【福祉事業と専門職倫理、地域づくり】           |
| ⑥ 社会福祉制度の概要(1)    | 【格差社会、生活困窮者支援、公的扶助】          |
| ⑦ 社会福祉制度の概要(2)    | 【社会福祉制度(障害者、高齢者、児童、社会手当)、年金】 |
| ⑧ 介護保険制度とサービス提供体制 | 【介護保険事業計画、サービス提供主体】          |
| ⑨ 介護事業とマネジメント     | 【ゲストスピーカー：事業経営とリスクマネジメントの実際】 |
| ⑩ 医療保険制度と医療提供体制   | 【皆保険とフリーアクセス、医療計画】           |
| ⑪ 医業とマネジメント       | 【ゲストスピーカー：事業経営とリスクマネジメントの実際】 |
| ⑫ 公衆衛生の概要         | 【感染症・疾病対策、精神保健と地域づくり】        |
| ⑬ グループ討議          | 【社会的課題と新事業の構築】               |
| ⑭ 社会保障の現状と展望(1)   | 【小論文提出、プレゼン、討論】              |
| ⑮ 社会保障の現状と展望(2)   | 【小論文提出、プレゼン、討論】              |

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講師と受講生の議論をもとに進め、課題に対する小論文の提出やプレゼンテーションを求めます。  
 日常の授業への取り組み・・・25% 期末小論文の提出及びプレゼンテーション(1回)・・・75%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講座資料を「BS-MOODLE」に予めアップしておきますので、参照し、疑問点などを整理したうえで授業に臨んでください。

## 履修上の注意 /Remarks

制度論を起点に、時事問題や事例などについて討議します。社会学、法学、経済学、財政学、経営学などの初歩的な知識があれば理解が深まりますが、日々の新聞を読み、自ら考える姿勢や知見があれば十分に履修できる内容です。  
 1年後期の「医療マネジメント」、2年前期の「福祉マネジメント」、2年後期の「医療・福祉・教育の現場」に接続する内容ですので、当該講座によってさらに学びを深めていただくことをお勧めします。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会保障を考える上では、社会的公正や社会的正義の実現だけでなく、財政問題とのトレードオフや企業経営との関係など、複合的な問題の解決に向けた多様な視点が必要です。  
 部分最適ではなく全体最適による社会経済の安定化にはどのような取り組みが必要なのかを考えていきます。

# 社会保障【夜】

## キーワード /Keywords

社会保障制度の枠組みと実務、企業経営と社会保障、社会福祉、社会保険、超少子高齢・人口減少社会、地域づくり・地域包括ケア

# 自治体経営【夜】

担当者名 /Instructor 幕 亮二 / Ryoji Maku / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

確実な将来である超高齢化社会が、他国に先駆け急速なスピードで訪れる我が国は、「課題先進国」とも呼ばれていますが、地域が抱える課題は共通する部分も多いですが、基本的には千差万別です。よって、人口減少（オーナス）時の地域政策は、国や自治体任せでなく、住民や企業が生活や活動の場である地域とどのように関わり続け得るか、持続可能な仕組み（スキーム）と課題解決の処方箋（施策・事業等）について、各地域で議論を尽くし合意形成することが重要です。

本講では、予期し共有することが可能な確実な将来予測と影響をベンチマークとして、コントロールし得るリスクを如何に（誰が・どのように）マネジメントすることが適切か、生活（いとなみ）と事業（なりわい）の「現場」である「地域」が抱える課題と解決策について、講師と受講者含めた講座全員でのディスカッションを通じ学びます。

## 教科書 /Textbooks

授業毎にレジメを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

次回講義のディスカッション・テーマに関する参考書やURLを、授業各回終了後にリストで配布します。  
 ディスカッションの基本である、多面的な視点・意見の尊重を学ぶ参考書としては、下記両著ご参照ください。  
 「地方消滅 東京一極集中が招く人口急減」増田寛也編著,中公新書  
 「地方消滅の罫「増田レポート」と人口減少社会の正体」山下祐介著,ちくま新書

# 自治体経営【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①ガイダンス（講義の全体構成・進め方の説明）  
都市と地域形成の歴史的背景と地域政策の変遷を振り返り、地域政策の全体体系を学びます。  
【都市と地域】【我が国における国土・地域政策の変遷】【地方創生】
- ②サステナビリティ（持続可能性）  
中長期的に確実に訪れる未来（超高齢化社会、気候変動等）が、地域にもたらす影響（財政、担い手、環境、安全安心）を整理し、政策課題と地域政策を考える際の枠組みを学びます。  
【2025年問題 / 2040年問題】【コンパクトシティ】【インフラメンテナンス】
- ③ディスカッション1（サステナビリティ（持続可能性））  
不確実な未来（グローバリゼーション・技術革新等）が、地域にもたらす影響と政策課題について考えます。  
【ダイバーシティ】【IoT（Internet of Things）】【Ai（Artificial Intelligence）】
- ④アカウンタビリティ（説明責任）  
行政評価・事業評価におけるPDCAの手続きとその導入・発展過程について学びます。  
【事前・事後評価】【NPM（New Public Management）】【パブリックインボルブメント】
- ⑤ディスカッション2（アカウンタビリティ（説明責任））  
将来にわたって持続可能な地域経営を行うに当たり、世代間負担に関する説明責任と合意形成をどのように進めていくべきかについて考えます。  
【政策形成過程】【多世代交流】【温暖化対策】
- ⑥クリエイティビティ（稼ぐ力）  
RESASデータや地域間産業連関表の概念と活用方法、基盤産業の定義や地域の産業構造の把握方法について学びます。  
【基盤産業と非基盤産業】【特化係数】【産業構造】
- ⑦ディスカッション3（クリエイティビティ（稼ぐ力））  
統計データを実際に扱い、時系列・他地域との比較を行い、地域の産業構造の変遷と企業誘致等産業立地政策の効果等について考えます。  
【生産性と雇用創出（吸収）力】【純移輸出】【企業城下町と産業クラスター】
- ⑧PPP / PFI（官民連携）  
導入の背景と適用範囲の拡大（コンセッション等）について、海外及び我が国の動向について学びます。  
【VFM（Value for Money）】【改正PFI法】【コンセッション】
- ⑨ディスカッション4（PPP / PFI（官民連携））  
主な失敗事例をケースに、官民双方のリスクと今後の方向性について考えます。  
【PFI推進委員会とコンセッション検証会議】【空港民営化】【PPPプラットフォーム】
- ⑩コミュニティ（まちづくり・ひとづくり）  
多世代交流と共助を促進するための、組織や拠点のあり方に関する論点を整理します。  
【生涯活躍の街 / CCRC（Continuing Care Retirement Community）】【地域福祉】
- ⑪ディスカッション5（コミュニティ（まちづくり・ひとづくり））  
地域活動の担い手を育成し、持続可能なコミュニティの再生を図るための、直接・間接的な施策について考えます。  
【多世代包括支援】【CSO（市民社会組織：Civil Society Organization）】
- ⑫モビリティ（移動・交通の自由と安全・安心）  
人口減少・高齢化の進展に対応した、安全・安心な地域づくりを目指すコンパクトシティと公共交通再生に関する論点・施策を整理します。  
【規制緩和】【コンパクトシティ】【Maas（Mobility As A Service）】
- ⑬ディスカッション6（モビリティ（移動・交通の自由と安全・安心））  
高齢社会における移動権及び安全の確保に資する、まちづくりや地域福祉等他の政策との連携や相乗効果について考えます。  
【交通政策基本法】【移動支援サービス】【自動運転】
- ⑭ブランドエクイティ（地域の誇りを資産にするマーケティング）  
シニアプロモーションや観光地域振興、ふるさと納税を契機とする特産品開発等の取り組みについて整理します。  
【DMO（Destination Management Organization）】【ふるさと納税】
- ⑮ディスカッション7（ブランドエクイティ（地域の誇りを資産にするマーケティング））  
地域ブランドを持続可能な地域づくりに活かすための施策について考えます。  
【地域ブランド】【郷土愛の醸成】【生涯学習】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のディスカッションへの貢献度（50%）と、全7回のディスカッションに関するレポート（50%）をもとに総合的に評価します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業各回終了後、次回講義のディスカッション・テーマに関して、参考書やURL等のリストを配布しますので、参照・予習して講義に参加してください。

## 履修上の注意 /Remarks

隔週2コマ講義ですので、前半は座学講義、後半は特定テーマに関して、出席受講者全員によるディスカッションを、講師がファシリテーターになり行います。受講者の積極的な参加を期待します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ディスカッションで大切な技術は、「聞く・聞き出す」力です。議論を通じて、相手だけでなく自分の意見や考え方を自問していく過程を楽しみましょう。

## キーワード /Keywords

# 自治体経営 【夜】

キーワード /Keywords

持続可能社会 地域経営 合意形成 事業創出 官民連携

# 産学連携と事業創造 【夜】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

日本の高度経済成長を支えてきた様々な地域産業は、時代変化の中で大きく変容している。そのため、地域産業の担い手であった企業、とりわけ中堅・中小企業はその対応追われる状況は長く続いている。そこで、本講義では前半部分で地域産業の変容の実態を概観しながら、これからの新産業を展望し、企業としてやるべき経営革新とは何かを考察する。また、後半部分では事業創造の手段の1つである「産学連携」に焦点をあてて、産学連携による新事業創造の実際の事例を学びながら、成果をあげるためのマネジメントについて事例を踏まえながら考察する。なお、本講義の到達目標は、①地域産業の変容を適切に捉えて事業創造のアイデアを生み出すことができる、②将来性があり現実的な産学連携プロジェクトのテーマを探索できる、③有機的かつ実践的なチーム体制を提案できる、である。

## 教科書 /Textbooks

適宜、資料やレポート等をプリントにて配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 中川淳 『経営とデザインの幸せな関係』 日経BP社
- 田中洋 『ブランド戦略全書』 有斐閣
- クレイトン・クリステンセン / ジェフリー・ダイアー / ハル・グレガーセン 『イノベーションのDNA』 翔泳社
- 玉田俊平太 『日本のイノベーションのジレンマ』 翔泳社
- 伊丹浩敬之 『経営戦略の論理』 日本経済新聞出版社
- マイケル・E・ポーター 『競争戦略I』『競争戦略II』 ダイヤモンド社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①地域産業とは？  
【地域における様々な産業の特徴とは：地域産業、地場産業、基盤産業、非基盤産業、クリエイティブ産業、立地戦略】
- ②、③変容する地域産業と時代潮流  
【サービス経済化が進む地域経済：鉄冷え、多角化、サービス産業、IT産業、シェアリングエコノミー】  
【期待される新産業・成長産業の方向性：第4次産業革命、IoT、イノベーション、新産業構造ビジョン】
- ④、⑤地域に根差した産業の可能性と経営革新  
【観光業の可能性：インバウンド、旅館、ホテル、飲食業、エンターテインメント、スポーツ、門司港レトロ、立地】  
【工芸産業の可能性：デザイン、ブランディング、イノベーション、地場産業、産地活性化、小倉織、立地】
- ⑥、⑦地域産業からの新たな事業創造の事例（ゲスト講師を招聘）
- ⑧、⑨クラスターにおけるイノベーション可能性  
【イノベーションとクラスター理論：破壊的イノベーション、持続的イノベーション、競争優位戦略、創新普及】  
【クラスターマネジャーからの示唆：コラボレーション、チームワーク、研究会運営、リーダーシップ】
- ⑩、⑪中小企業による産学連携の落とし穴  
【中小企業H社に係るケースによるディスカッション：人間関係、チームマネジメント、秘密保持契約、情報漏えい】  
【中小企業H社から得る教訓とH社のその後：知財戦略、プロジェクトマネジメント、技術蓄積】
- ⑫、⑬産学連携プロジェクトのプロデュースのポイントと実例  
【イノベーションのためのスキルと人材：ネットワーク力、関連づけ思考、技術者、質問力、観察力、産業政策】  
【産学連携プロジェクト創出の実態：(仮称)植物工場プロジェクト、(仮称)アロマプロジェクト】
- ⑭、⑮産学連携の現実と可能性  
【中堅企業A社に係るケースによるディスカッション：チームマネジメント、事業化、マーケティング、営業】  
【地域事業創造のために：コラボレーション、マーケティング、ブランディング、立地戦略、関連付け思考】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ケーススタディ2回に対する課題レポート (30%×2 = 60%)
- ブランディングに係る課題レポート (20%)
- その他の日常的なディスカッションに係る貢献度 (20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、ブランディングやイノベーションに対する基礎的な知識を習得・確認していることを期待しています。また、ポーターのクラスター論、クリステンセンのイノベーション論の習得をお勧めします。事後学習については、講義に活用した資料や参考資料を活用して講義の確認をしてください。

## 履修上の注意 /Remarks



# 産学連携と事業創造 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地戦略、産業構造、サービス化、ブランディング、コラボレーション、イノベーション、技術革新、創新普及、産学連携、チームマネジメント、クラスター、ビジネスモデル

# アジア型経営【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

1990年代以降、日本経済の対東アジア依存度が持続的に高まってきた。東アジア域内では特に市場としての中華地域（中国大陸、台湾、香港・マカオ、シンガポール）、ビジネスパートナーとしての中華系資本（中華地域の資本に、地域外の華僑・華人系資本を加えたもの）との結び付きが日増しに深まってきている。こうした現実を鑑み、本講義では日本企業の対東アジアビジネス展開に必要とされる現地系企業の経営様式（企業制度と経営システムの特徴、競争優位性など）に関する体系的知識と関係作りの心得を学ぶことにウェイトをおいている。前半では中華系資本の行動様式（経営様式）の根底にある「伝統経営思想」の学習（代表的なものを取り上げ、その誕生の背景、中華社会構造に及ぼす影響、中華ビジネスにおける応用に対して理解を深めていく）にウェイトをおき、後半では本講義担当者がケース研究してきたASEAN華人系、台湾系と中国大陸系企業の事例を各1ケース取り上げ、グループ討論方式を取り入れて「中華系ビジネス」を学んで行く。比較経営の視点から日本企業との比較、関係性を意識して進める考えである。

## 教科書 /Textbooks

手作り資料を配布する予定

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

デイヴィッド・ツェ&古田茂美著 鈴木あかね訳『グワンシー』ディスカバー  
 王 効平、尹大栄、米山茂美著 『日中韓企業の経営比較』 税務経理協会  
 王効平著 『華人系資本の企業経営』 日本経済評論社  
 末廣昭著 『ファミリービジネス論』 名古屋大学出版会  
 末廣昭著 『新興アジア経済論』 岩波書店

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション：なぜ「中華圏」か  
 【儒教資本主義】 【開発経済学】 【新儒家】
- ② 特に儒教文化圏の財閥企業の位置づけ  
 【韓国系財閥】 【中華系財閥 (含華人系財閥)】 【儒商】
- ③ 中華系企業の経営様式 1  
 【企業経営と文化】 【企業統治構造】 【事業継承】
- ④ 中華系企業の経営様式 2  
 【経営の内部特性】 【戦略立案】 【組織特性】 【管理システム】
- ⑤ 中華圏の経営思想 1 (儒教文化)  
 【孔孟思想】 【論語】 【マックス・ウェーバー】
- ⑥ 中華圏の経営思想 2 (儒教文化の現代経営的応用)  
 【信用】 【組織協調】 【関係 (グワンシー)】
- ⑦ 中華圏の経営思想 3 (老荘思想・法家思想)  
 【無為自然】 【富貴繁栄】 【信賞必罰】 【法と術】
- ⑧ 中華圏の経営思想 4 (戦略論)  
 【孫子の兵法】 【マイケルポーター】
- ⑨ 事例研究1 ASEANの華人系企業  
 【CPグループ】 【コングロマリット化】
- ⑩ 事例研究 1 のグループ討論  
 日系企業との事業提携を踏まえて
- ⑪ 事例研究 2 台湾系企業  
 【EMS】 【IOT】 【SCM】
- ⑫ 事例研究 2 のグループ討論  
 日系企業との事業提携を踏まえて
- ⑬ 事例研究 3 中国民営企業  
 【民営化・市場化】 【後発効果】
- ⑭ 事例研究 3 のグループ討論  
 グローバル企業との事業提携を踏まえて
- ⑮ まとめ 総合討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの提出状況・完成度 50%、討議参加の積極さ・寄与度 50%

# アジア型経営 【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読資料を配布する  
参考文献を各自入手して活用すること

## 履修上の注意 /Remarks

- ◇ 関係資料を学習支援フォルダーに事前アップの予定。
- ◇ 「国際経営」、「海外研修」など国際系科目の履修済みが望ましい
- ◇ 数回課題を課す予定

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ◇ 課題提出期限の厳守
- ◇ 積極的な発言、質疑を期待

## キーワード /Keywords

# NPO / NGO実践論 【夜】

担当者名 /Instructor 平 由以子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

本事業では、企業でもない、行政でもない独自の視点をもつNPOならではの事業や新しい働き方、企業にはない運営やコミュニケーションスキルなど、NPOの現場や事例に学び、ビジネスや社会的意義、今後の可能性について学ぶことを目的とする。また、NPO特有のコミュニケーションの取り方やリーダーシップ、チームビルディングについても学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

特になし。毎回資料を準備して活用する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

「市民のネットワーキング」市民の仕事術I・II 加藤哲夫著  
 「非営利組織の経営」Pドラッガー  
 その他は、必要に応じ最新情報を適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① NPO概論
- ② ミッションと組織の成り立ち【ミッション】
- ③ NPO組織マネジメントI【リーダーシップ】
- ④ 対話をデザインする【コミュニケーションスキル】
- ⑤ 上手な会議の進め方【コミュニケーションスキル】
- ⑥ NPO組織マネジメントII【基盤強化ロジック】
- ⑦ NPO組織マネジメントIII【資金調達】
- ⑧ SDG sと地域課題の同時解決①【SDG sの実際】
- ⑨ SDG sと地域課題の同時解決②【SDG sを深める】
- ⑩ 社会に課題を抱える若者事業【若者】
- ⑪ 【先行事例研究】海外NGO
- ⑫ 【先行事例研究】ソーシャルコレクティブインパクト
- ⑬ NGOと国際活動の実際【NGO活動に学ぶ】
- ⑭ 多様な主体と連携・ソーシャルインパクト【連携・評価】
- ⑮ 総括とふりかえり

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート.....50%、日常の授業への取り組み.....50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後には、授業の復習をしてください。

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

独自の視点と人と人をつなぎ、社会的インパクトを創出するNPO活動。20年の経験と、事例なども活用し、NPOの可能性を探ります。実践的なワークを多く取り入れ楽しく学んでいきます。

## キーワード /Keywords

ミッション、リーダーシップ、コミュニケーション、SDG s 基盤強化ロジック、連携、評価

# サービス・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 桑野 和泉 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

1970年代以降、わが国ではサービス産業のシェアの拡大が顕著となり、今日に到るまでサービス経済化が進んでいます。その間、リゾート・ブームや最近のインバウンド市場の拡大など観光業の位置づけは高まっています。しかしながら、その現場はごく一部を除くと、試行錯誤の連続でサービス・マネジメントやホスピタリティ・マネジメントを体系的に整理し、実践しているとは言い難い状況にあります。

そこで、本講義では、受講者の皆さんとともに、宿泊業をはじめとした観光業の事例を拠り所に、サービスならびにホスピタリティの本質について考察・検討を行なって、多様なサービス業での応用を試みます。また同時に、由布院の観光まちづくりの事例から、まちにおけるサービスやホスピタリティのあり方について展望します。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

服部勝人「ホスピタリティ学のすすめ」 丸善出版  
 クリストファー・ラブロック/ヨッヘン・ウィルツ「サービス・マーケティング」 ピアソンエデュケーション  
 大澤健・米田誠司「由布院モデル」 学芸出版社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イントロダクション：講義の進め方と由布院・玉の湯の概要  
 【保養温泉地】【旅館】【接客業】【癒し】【由布院ブランド】
  - ②由布院の地域づくりの歴史(1)  
 【ダム化計画】【奥別府】【ゴルフ場計画】【明日の由布院を考える会】【保養温泉地】
  - ③由布院の地域づくりの歴史(2)  
 【辻馬車】【牛食い絶叫大会】【ゆふいん音楽祭】【湯布院映画祭】【潤いのあるまちづくり条例】
  - ④地域共生と由布院ブランド  
 【景観保全】【由布院観光総合事務所】【ゆふいんの森号】
  - ⑤由布院ブランドにおける玉の湯のポジションと役割  
 【小規模点在の宿泊施設】【棲み分け】【地域文化】
  - ⑥サービス施設としての玉の湯の特徴  
 【サービス・マーケティング】【8P】
  - ⑦玉の湯のおもてなしとホスピタリティ  
 【おもてなし】【料理】【雑木林】【時間消費】【地域文化】
  - ⑧身の丈経営と経営継承の実際  
 【事業継承】【継続性】【中小企業】
  - ⑨インバウンド対応とホスピタリティ人材  
 【グローバル化】【多文化共生】【従業員満足】【人材育成】
  - ⑩注目しているサービス組織・ホスピタリティ組織(1)
  - ⑪注目しているサービス組織・ホスピタリティ組織(2)
  - ⑫注目している観光地域・集客地域(1)
  - ⑬注目している観光地域・集客地域(2)
  - ⑭これからのサービス&ホスピタリティ・マネジメント(1)
  - ⑮これからのサービス&ホスピタリティ・マネジメント(2)
- 受講者の皆さんと相談のうえで、由布院での講義・フィールドワークを実施する場合があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート40%、プレゼンテーション40%、討議に対する貢献20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義中盤のプレゼンテーションワークには相応の事前準備が求められる。

## 履修上の注意 /Remarks

双方型の講義スタイルで進めます。積極的な発言が受講生には求められます。

# サービス・マネジメント【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

具体的な案件を取り上げて議論を深めたいです  
皆さんの活発な発言を期待しています。

## キーワード /Keywords

# 中華圏の経営思想【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

1990年代以降、日本経済の対東アジア依存度が持続的に高まってきた。東アジア域内では特に市場としての中華地域（中国大陸、台湾、香港・マカオ、シンガポール）、ビジネスパートナーとしての中華系資本（中華地域の資本に、地域外の華僑・華人系資本を加えたもの）との結び付きが日増しに深まってきている。こうした現実に鑑み、本講義では日本企業の対東アジアビジネス展開に必要とされる現地系企業の経営様式（企業制度と経営システムの特徴、競争優位性など）に関する体系的知識と関係作りの心得を学ぶことにウェイトをおいている。前半では中華系資本の行動様式（経営様式）の根底にある「伝統経営思想」の学習（代表的なものを取り上げ、その誕生の背景、中華社会構造に及ぼす影響、中華ビジネスにおける応用に対して理解を深めていく）にウェイトをおき、後半では本講義担当者がケース研究してきたASEAN華人系、台湾系と中国大陸系企業の事例を各1ケース取り上げ、グループ討論方式を取り入れて「中華系ビジネス」を学んで行く。比較経営の視点から日本企業との比較、関係性を意識して進める考えである。

## 教科書 /Textbooks

手作り資料を配布する予定

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

デイヴィッド・ツェ&古田茂美著 鈴木あかね訳『グワンシー』ディスカバー  
 王 効平、尹大栄、米山茂美著 『日中韓企業の経営比較』 税務経理協会  
 王効平著 『華人系資本の企業経営』 日本経済評論社  
 末廣昭著 『ファミリービジネス論』 名古屋大学出版会  
 末廣昭著 『新興アジア経済論』 岩波書店

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イントロダクション：なぜ「中華圏」か  
 【儒教資本主義】【開発経済学】【新儒家】
- ②特に儒教文化圏の財閥企業の位置づけ  
 【韓国系財閥】【中華系財閥(含華人系財閥)】【儒商】
- ③中華系企業の経営様式1  
 【企業経営と文化】【企業統治構造】【事業継承】
- ④中華系企業の経営様式2  
 【経営の内部特性】【戦略立案】【組織特性】【管理システム】
- ⑤中華圏の経営思想1(儒教文化)  
 【孔孟思想】【論語】【マックス・ウェーバー】
- ⑥中華圏の経営思想2(儒教文化の現代経営的応用)  
 【信用】【組織協調】【関係(グワンシー)】
- ⑦中華圏の経営思想3(老荘思想・法家思想)  
 【無為自然】【富貴繁栄】【信賞必罰】【法と術】
- ⑧中華圏の経営思想4(戦略論)  
 【孫子の兵法】【マイケルポーター】
- ⑨事例研究1 ASEANの華人系企業  
 【CPグループ】【コングロマリット化】
- ⑩事例研究1のグループ討論  
 日系企業との事業提携を踏まえて
- ⑪事例研究2 台湾系企業  
 【EMS】【IOT】【SCM】
- ⑫事例研究2のグループ討論  
 日系企業との事業提携を踏まえて
- ⑬事例研究3 中国民営企業  
 【民営化・市場化】【後発効果】
- ⑭事例研究3のグループ討論  
 グローバル企業との事業提携を踏まえて
- ⑮まとめ 総合討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの提出状況・完成度 50%、討議参加の積極さ・寄与度 50%

# 中華圏の経営思想【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読資料を配布する  
参考文献を各自入手して活用すること

## 履修上の注意 /Remarks

- ◇ 関係資料を学習支援フォルダーに事前アップの予定。
- ◇ 「国際経営」、「海外研修」など国際系科目の履修済みが望ましい
- ◇ 数回課題を課す予定

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ◇ 課題提出期限の厳守
- ◇ 積極的な発言、質疑を期待

## キーワード /Keywords



# 中華圏の貿易実務【夜】

担当者名 /Instructor 増田 正美 / masuda masami / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

アジア貿易実務の授業では現在大きく台頭・発展をし続けるアジア（中華圏）各国経済に基づく日本とアジア（中華圏）間の国際貿易輸出入業務及びビジネス活動作業を円滑、効果的に遂行するには是非必要な貿易実務能力を取得して頂く事を目的とします。貿易実務理論に基づく知識の学習・応用・訓練を行い、具体的貿易実務技術取得を目指す為の授業を行います。輸出入貿易取引・貿易為替金融業務・輸出入通関手続き、倉庫手続き・海外保険・税関手続き等の貿易実務知識の基本的理解と蓄積を目指し、履修生の実践的アジア（中華圏）貿易実務を実行可能な方向へと導き能力向上を目指します。

担当者本人の40数年に渡る貿易取引実体験を踏まえたケース紹介を講義に取り入れ、適宜グループ討論も組み入れていきます。

## 教科書 /Textbooks

曾我しのぶ著『貿易実務の基礎がわかる本』株式会社シーアンドアール研究所、2017年4月5日初版、¥3,420)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

貿易出版物や関係機構のウェブ情報を必要に応じ紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イントロダクション・貿易の仕組み【 貿易取引と日本国内取引の相違 】
- ②輸入取引と輸出取引【 各市場調査の必要性 】
- ③貿易取引の条件設定と価格算定の要点【 インコタームズ 】
- ④輸入貨物の実務処理作業と輸出貨物の注意点【 輸出入通関面でのポイント 】
- ⑤労働厚生省・検疫所、動物・植物検疫所等行政面における規制注意点【 食品安全とポジティブリスト制度等々の関係管理規制 】
- ⑥財務省・税関の役割と機能【 関税・消費税等の説明と注意点 】
- ⑦貿易金融の実務【 LC, D / P & D / A 決済, T / T 送金、外国為替等 】
- ⑧貿易貨物物流の実務【 物流手段の多様化 】
- ⑨貿易形態の種類【 保税地区、加工貿易、三国間貿易等 】
- ⑩貿易上のクレーム発生と解決 ( 1 )【 クレームの各種具体的事例 】
- ⑪貿易上のクレーム発生と解決 ( 2 )【 クレームの解決方法 】
- ⑫ガット以降のWTO機構設立とアジア貿易に於ける劇的發展と変化【 グローバル化 】
- ⑬FTA ( 自由貿易協定 )、EPA ( 多国間経済連携協定 ) ACFTA ( 中国アセアン自由貿易協定 )、TPP 11 等とアジア貿易。
- ⑭東南アジア・EUと中国の「一帯一路」とA I I B【 アジアに於ける日本・中国と関係諸国間の協力関係の変化と発展 】
- ⑮まとめと総論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験レポート； 50%、 日常の授業への取り組み；30%、小テスト；20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前の予習と授業前の復習を心がけて下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

常に世界経済に関するニュース情報、アジア経済趨勢と動向等に感心を有して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

当授業を通じアジア（中華圏）貿易実務への理解と認識を深めて頂き、実践的貿易実務行動面での能力向上を目指し行をされることを願っています。  
 担当者の40数年間に及ぶ貿易業務実績に基づく基本及び実践面の応用を授業の中に組み入れ、具体例を挙げながら判り易く授業を遂行致して参り

## キーワード /Keywords

インコタームズ・輸出入貿易クレーム・貿易金融・グローバル経済・一帯一路

# 地域プロジェクト・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 林田 暢明 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 2年  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

日本のみならず世界的潮流として、プロジェクトマネジメント能力を有する人材の不足が叫ばれ、その需要は高まっている。大企業を中心に人材は部門化され、スペシャリストの育成には長けているものの、全体を見渡して企画を立案・遂行していく人材は今や希少だ。また、公的部門も各部署の縦割りが解消されないまま、人口減少、財政危機、自然災害の多発等、部署単体では解決できないような課題に直面している。こうした中、官民を問わず全体を見渡しプロジェクトを遂行させていく企画立案能力、および部門・部署の垣根を超えて利害を調整しながらプロジェクトを進捗させていくファシリテーション能力が、ますます重要になってきている。本講義では、地方自治体や民間企業に、ファシリテーションを一つのツールとして用いながら、現在進行形でプロジェクトマネージャーとして関わっている現場経験をベースに、プロジェクトマネジメントとファシリテーションの双方を学び、各人が企業や地域で実践できるレベルの能力を修得することを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

特に教科書は指定しないが、必要に応じてプリント等を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『現実はいつも対話から生まれる』ケネス・J・ゲーガン著
- 『ワールド・カフェ~カフェ的会話が未来を創る~』アニータ・ブラウン / デヴィッド・アイザックス著
- 『学習する組織』ピーター・センゲ著 等

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス、プロジェクトファシリテーションの意義
- 2 企画力の基礎①：プロジェクトと事業アイデンティティ
- 3 企画力の基礎②：論理的思考とブレインストーミングの手法
- 4 事業プランディングと戦略的思考
- 5 GROWモデルと8W4Hを意識した企画組成
- 6 ブレインストーミングとしてのファシリテーション
- 7 ファシリテーションスキル：実際の地方創生や企業の現場から
- 8 ファシリテーショントレーニング①：ワールドカフェ
- 9 ファシリテーショントレーニング②：Open Space Technology
- 10 プロジェクトマネジメント①：プロジェクト組織構造等
- 11 プロジェクトマネジメント②：プロジェクトマネジメントプロセス等
- 12 プロジェクトファシリテーション実践のための運営企画・準備①
- 13 プロジェクトファシリテーション実践のための運営企画・準備②
- 14 プロジェクトファシリテーション実践①
- 15 プロジェクトファシリテーション実践②

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講座全体の受講状況 40%  
 プロジェクトファシリテーション実践の取り組み状況と成果 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外でも、職場や地域社会へのフィードバック等、実践を意識すること。

## 履修上の注意 /Remarks

2コマ連続の隔週講義を基本とします。  
 基本的に、ワークショップ形式で授業を構成し、最後の2コマでは、実際のファシリテーションを体験するべくプロジェクトを企画していきます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際に、民間企業や国・地方自治体において活動してきた中で、強く実感したのは、自らプロジェクトを組成しそれを回していくプロデューサーが著しく少ないこと、また、そのプロジェクトを円滑に進めていくためのファシリテーターが、現場から強く求められていることの二つだ。本講義を通して、実際にプロジェクトを組成し、ファシリテーションを活用してきた経験とノウハウを伝えていきたい。

# 地域プロジェクト・マネジメント 【夜】

## キーワード /Keywords

プロジェクトマネジメント、ファシリテーション、企業経営、自治体経営、地方創生、地域活性化、アウタルキー

# ビジネス中国語【夜】

担当者名 /Instructor 森田 三恵子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

グローバル化が進む中、日本と中国との経済相互依存関係が強まる一方です。本講義ではビジネスで使われる用語やフレーズ、異なる表現の仕方やニュアンスの違いなど、様々なシチュエーションに応じて丁寧に説明致します。  
 商習慣（例：ビジネス現場でも活躍されているWeChatによるコミュニケーション）と文化背景の違いにまつわるエピソードも交えながら、ビジネス現場で使われる頻度の高いものを整理し、皆様主体で着実に会話を練習してまいります。

## 教科書 /Textbooks

各回で用語・フレーズ集、会話例、課題等の資料を配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特に使用しない

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 四声、拼音を含めた発音練習
- 2回 中国語による自己紹介、Wechat導入
- 3回 空港での出迎え(1)【関連表現：出迎え側と相手側】
- 4回 空港での出迎え(2)【実践練習：福岡空港で上海からの視察団体を迎える場面】
- 5回 日程紹介(1)【関連表現：接待側と相手側】
- 6回 日程紹介(2)【実践練習：工場見学や観光日程】
- 7回 ホテル案内(1)【関連表現：数字や時間表現】
- 8回 ホテル案内(2)【実践練習】
- 9回 会社紹介(1)【関連表現：貿易会社】
- 10回 会社紹介(2)【実践練習】
- 11回 交渉・商談(1)【関連表現：価格交渉・投資提案】
- 12回 交渉・商談(2)【実践練習】
- 13回 契約【紛争解決条項について】
- 14回 帰国挨拶(1)【関連表現：見送りと答礼】
- 15回 帰国挨拶(2)【実践練習】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・30%  
 日常の授業への取り組み・・・40%  
 小テスト(4回)・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題を紙ベースで配布するので毎回参照し準備すること。  
 各回に必要な学習時間については、予習60分、復習90分を参考目安とします。

## 履修上の注意 /Remarks

ある程度中国語を理解できる、もしくは簡単な会話ができる方の受講が望ましいです。「国際経営」を履修しておくことが望ましいです。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

間違っても気にせず話したい意欲を持つことが大事です。

## キーワード /Keywords

# 経営学特講【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 集中  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が急ピッチに進んでいる中、長期低迷に喘いできた地域経済を活性化させるために、広い視野を持ち、国際感覚を有するリーダー人材の育成が急務である。ビジネススクールが地域産業や社会を背負って立つリーダー養成の責務を担っており、海外ビジネススクールや現地系企業・多国籍企業等における訪問研修の機会（現場体験が可能な実践的教育プログラム）を学生に提供することによってコミュニケーション能力の向上と異文化交流の促進効果を高めると共に、グローバル的なビジネスの開拓・連携ネットワーク作りに寄与することを目指す。日本と強い相互依存関係にあり、高成長を継続させている東アジア地域の主要ビジネススクールを受け皿に選び、その支援により、現地における講義受講、現地企業の視察訪問と現地MBA経営者層との対面交流を通じて、国際感覚の養成、海外ビジネスの実体験、ビジネスネットワーク（人脈）作りに努める。

開講時期は夏季集中講義期間中の予定（訪問先と日時について受け入れ先との調整を図る必要あり、大凡5月末に確定）。

## 教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しないが、事前に研修計画書、海外活動の注意事項（マニュアル）を作成し、配布する。  
 事前説明会を行う。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ・ 研修先の紹介資料
  - ・ 過年度海外研修の実績紹介資料
  - ・ ビジネスマッチングのノウハウについての紹介資料
- 他に必要に応じて紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 出発前のオリエンテーション
- 2 現地ビジネススクールによる特別講義I
- 3 現地ビジネススクールによる特別講義II
- 4 現地企業経営者による特別講義III（パネル討議方式）
- 5 現地ビジネススクール開講講義参観
- 6 ビジネススクール在學生との交流イベントI
- 7 ビジネススクール卒業生との交流イベントII
- 8 現地系企業視察A
- 9 現地系企業視察B
- 10 現地（日系）企業視察C
- 11 現地外資誘致当局が経済団体ヒアリング
- 12 現地開発区参観
- 13 現地における研修成果共同発表&パネルディスカッション
- 14 研修レポート提出
- 15 帰校後の成果発表（グループ）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

企画準備・現地活動への参加度 60%  
 課題レポートの完成度 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に必読資料を配布する予定  
 改めて指示する

## 履修上の注意 /Remarks

一定程度の語学力を自ら身につけることが望まれる  
 出発前に求められる準備事項に責任を持って取り組むこと  
 訪問先の文化・慣習や制度を尊重すること  
 集団参加のプログラムであるため、協調性を持ち、単独行動を取らないこと

# 経営学特講 【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

視野が確実に広がる！  
必ず得るものがある！  
人生観が変わるかも！

## キーワード /Keywords

## グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

MBAオリエンテーションでは、MBAで学ぶ専門領域と研究方法のオリエンテーションおよび討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、専任教員等のローテーションによる指導のもとでのディスカッションを実施した後、グループによる講読、グループによるフレームワークを活用した企業・業界等の分析を行う。そのうえで、グループ単位での報告会を実施する。したがって、学生はリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下、目安となる基本的な授業内容と枠組みである。

①～⑤ 専任教員のローテーションによる指導

【専門分野と研究アプローチに応じたテーマ提供によるディスカッション】

⑥～⑨ 専任教員等の指導のもとでのグループによる講読

⑩ グループによる講読に対する成果報告会

⑫～⑭ 専任教員の指導のもとでのグループによるフレームワークを活用した企業・業界分析

【フレームワーク：3C、4P、5フォース、SWOT分析】

⑮ グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の報告会

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループによる講読での貢献度および報告会でのパフォーマンス ( 50% )

グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の貢献度および報告会でのパフォーマンス ( 50% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読資料は事前に配布する。また、講読の対象書籍は事前に指示する。よって、履修者は適宜、予習を心がけること。また、グループによる講読やフレームワークを活用した企業・業界分析では担当教員から課題が与えられるので、指示に従って学習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

ディスカッション、コラボレーション、プレゼンテーション、フレームワーク、読解力

## グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

MBAオリエンテーションでは、MBAで学ぶ専門領域と研究方法のオリエンテーションおよび討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、専任教員等のローテーションによる指導のもとでのディスカッションを実施した後、グループによる講読、グループによるフレームワークを活用した企業・業界等の分析を行う。そのうえで、グループ単位での報告会を実施する。したがって、学生はリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下、目安となる基本的な授業内容と枠組みである。

①～⑤ 専任教員のローテーションによる指導

【専門分野と研究アプローチに応じたテーマ提供によるディスカッション】

⑥～⑨ 専任教員等の指導のもとでのグループによる講読

⑩ グループによる講読に対する成果報告会

⑫～⑭ 専任教員の指導のもとでのグループによるフレームワークを活用した企業・業界分析

【フレームワーク：3C、4P、5フォース、SWOT分析】

⑮ グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の報告会

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループによる講読での貢献度および報告会でのパフォーマンス ( 50% )

グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の貢献度および報告会でのパフォーマンス ( 50% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読資料は事前に配布する。また、講読の対象書籍は事前に指示する。よって、履修者は適宜、予習を心がけること。また、グループによる講読やフレームワークを活用した企業・業界分析では担当教員から課題が与えられるので、指示に従って学習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

ディスカッション、コラボレーション、プレゼンテーション、フレームワーク、読解力



## グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

MBAオリエンテーションでは、MBAで学ぶ専門領域と研究方法のオリエンテーションおよび討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、専任教員等のローテーションによる指導のもとでのディスカッションを実施した後、グループによる講読、グループによるフレームワークを活用した企業・業界等の分析を行う。そのうえで、グループ単位での報告会を実施する。したがって、学生はリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下、目安となる基本的な授業内容と枠組みである。

- ①～⑤ 専任教員のローテーションによる指導  
【専門分野と研究アプローチに応じたテーマ提供によるディスカッション】
- ⑥～⑨ 専任教員等の指導のもとでのグループによる講読
- ⑩ グループによる講読に対する成果報告会
- ⑪～⑭ 専任教員の指導のもとでのグループによるフレームワークを活用した企業・業界分析  
【フレームワーク：3C、4P、5フォース、SWOT分析】
- ⑮ グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の報告会

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループによる講読での貢献度および報告会でのパフォーマンス ( 50% )

グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の貢献度および報告会でのパフォーマンス ( 50% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読資料は事前に配布する。また、講読の対象書籍は事前に指示する。よって、履修者は適宜、予習を心がけること。また、グループによる講読やフレームワークを活用した企業・業界分析では担当教員から課題が与えられるので、指示に従って学習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

ディスカッション、コラボレーション、プレゼンテーション、フレームワーク、読解力

## グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

MBAオリエンテーションでは、MBAで学ぶ専門領域と研究方法のオリエンテーションおよび討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、専任教員等のローテーションによる指導のもとでのディスカッションを実施した後、グループによる講読、グループによるフレームワークを活用した企業・業界等の分析を行う。そのうえで、グループ単位での報告会を実施する。したがって、学生はリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下、目安となる基本的な授業内容と枠組みである。

①～⑤ 専任教員のローテーションによる指導

【専門分野と研究アプローチに応じたテーマ提供によるディスカッション】

⑥～⑨ 専任教員等の指導のもとでのグループによる講読

⑩ グループによる講読に対する成果報告会

⑫～⑭ 専任教員の指導のもとでのグループによるフレームワークを活用した企業・業界分析

【フレームワーク：3C、4P、5フォース、SWOT分析】

⑮ グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の報告会

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループによる講読での貢献度および報告会でのパフォーマンス ( 50% )

グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の貢献度および報告会でのパフォーマンス ( 50% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読資料は事前に配布する。また、講読の対象書籍は事前に指示する。よって、履修者は適宜、予習を心がけること。また、グループによる講読やフレームワークを活用した企業・業界分析では担当教員から課題が与えられるので、指示に従って学習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

ディスカッション、コラボレーション、プレゼンテーション、フレームワーク、読解力

## グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

MBAオリエンテーションでは、MBAで学ぶ専門領域と研究方法のオリエンテーションおよび討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、専任教員等のローテーションによる指導のもとでのディスカッションを実施した後、グループによる講読、グループによるフレームワークを活用した企業・業界等の分析を行う。そのうえで、グループ単位での報告会を実施する。したがって、学生はリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下、目安となる基本的な授業内容と枠組みである。

①～⑤ 専任教員のローテーションによる指導

【専門分野と研究アプローチに応じたテーマ提供によるディスカッション】

⑥～⑨ 専任教員等の指導のもとでのグループによる講読

⑩ グループによる講読に対する成果報告会

⑫～⑭ 専任教員の指導のもとでのグループによるフレームワークを活用した企業・業界分析

【フレームワーク：3C、4P、5フォース、SWOT分析】

⑮ グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の報告会

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループによる講読での貢献度および報告会でのパフォーマンス ( 50% )

グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の貢献度および報告会でのパフォーマンス ( 50% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読資料は事前に配布する。また、講読の対象書籍は事前に指示する。よって、履修者は適宜、予習を心がけること。また、グループによる講読やフレームワークを活用した企業・業界分析では担当教員から課題が与えられるので、指示に従って学習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

ディスカッション、コラボレーション、プレゼンテーション、フレームワーク、読解力

## グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

MBAオリエンテーションでは、MBAで学ぶ専門領域と研究方法のオリエンテーションおよび討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、専任教員等のローテーションによる指導のもとでのディスカッションを実施した後、グループによる講読、グループによるフレームワークを活用した企業・業界等の分析を行う。そのうえで、グループ単位での報告会を実施する。したがって、学生はリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下、目安となる基本的な授業内容と枠組みである。

①～⑤ 専任教員のローテーションによる指導

【専門分野と研究アプローチに応じたテーマ提供によるディスカッション】

⑥～⑨ 専任教員等の指導のもとでのグループによる講読

⑩ グループによる講読に対する成果報告会

⑫～⑭ 専任教員の指導のもとでのグループによるフレームワークを活用した企業・業界分析

【フレームワーク：3C、4P、5フォース、SWOT分析】

⑮ グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の報告会

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループによる講読での貢献度および報告会でのパフォーマンス ( 50% )

グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の貢献度および報告会でのパフォーマンス ( 50% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読資料は事前に配布する。また、講読の対象書籍は事前に指示する。よって、履修者は適宜、予習を心がけること。また、グループによる講読やフレームワークを活用した企業・業界分析では担当教員から課題が与えられるので、指示に従って学習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

ディスカッション、コラボレーション、プレゼンテーション、フレームワーク、読解力

## グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

MBAオリエンテーションでは、MBAで学ぶ専門領域と研究方法のオリエンテーションおよび討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、専任教員等のローテーションによる指導のもとでのディスカッションを実施した後、グループによる講読、グループによるフレームワークを活用した企業・業界等の分析を行う。そのうえで、グループ単位での報告会を実施する。したがって、学生はリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下、目安となる基本的な授業内容と枠組みである。

①～⑤ 専任教員のローテーションによる指導

【専門分野と研究アプローチに応じたテーマ提供によるディスカッション】

⑥～⑨ 専任教員等の指導のもとでのグループによる講読

⑩ グループによる講読に対する成果報告会

⑫～⑭ 専任教員の指導のもとでのグループによるフレームワークを活用した企業・業界分析

【フレームワーク：3C、4P、5フォース、SWOT分析】

⑮ グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の報告会

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループによる講読での貢献度および報告会でのパフォーマンス ( 50% )

グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の貢献度および報告会でのパフォーマンス ( 50% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読資料は事前に配布する。また、講読の対象書籍は事前に指示する。よって、履修者は適宜、予習を心がけること。また、グループによる講読やフレームワークを活用した企業・業界分析では担当教員から課題が与えられるので、指示に従って学習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

ディスカッション、コラボレーション、プレゼンテーション、フレームワーク、読解力

## グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

MBAオリエンテーションでは、MBAで学ぶ専門領域と研究方法のオリエンテーションおよび討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、専任教員等のローテーションによる指導のもとでのディスカッションを実施した後、グループによる講読、グループによるフレームワークを活用した企業・業界等の分析を行う。そのうえで、グループ単位での報告会を実施する。したがって、学生はリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下、目安となる基本的な授業内容と枠組みである。

①～⑤ 専任教員のローテーションによる指導

【専門分野と研究アプローチに応じたテーマ提供によるディスカッション】

⑥～⑨ 専任教員等の指導のもとでのグループによる講読

⑩ グループによる講読に対する成果報告会

⑫～⑭ 専任教員の指導のもとでのグループによるフレームワークを活用した企業・業界分析

【フレームワーク：3C、4P、5フォース、SWOT分析】

⑮ グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の報告会

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループによる講読での貢献度および報告会でのパフォーマンス ( 50% )

グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の貢献度および報告会でのパフォーマンス ( 50% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読資料は事前に配布する。また、講読の対象書籍は事前に指示する。よって、履修者は適宜、予習を心がけること。また、グループによる講読やフレームワークを活用した企業・業界分析では担当教員から課題が与えられるので、指示に従って学習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

ディスカッション、コラボレーション、プレゼンテーション、フレームワーク、読解力

## グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名  
/Instructor

松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

MBAオリエンテーションでは、MBAで学ぶ専門領域と研究方法のオリエンテーションおよび討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、専任教員等のローテーションによる指導のもとでのディスカッションを実施した後、グループによる講読、グループによるフレームワークを活用した企業・業界等の分析を行う。そのうえで、グループ単位での報告会を実施する。したがって、学生はリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下、目安となる基本的な授業内容と枠組みである。

①～⑤ 専任教員のローテーションによる指導

【専門分野と研究アプローチに応じたテーマ提供によるディスカッション】

⑥～⑨ 専任教員等の指導のもとでのグループによる講読

⑩ グループによる講読に対する成果報告会

⑫～⑭ 専任教員の指導のもとでのグループによるフレームワークを活用した企業・業界分析

【フレームワーク：3C、4P、5フォース、SWOT分析】

⑮ グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の報告会

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループによる講読での貢献度および報告会でのパフォーマンス ( 50% )

グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の貢献度および報告会でのパフォーマンス ( 50% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読資料は事前に配布する。また、講読の対象書籍は事前に指示する。よって、履修者は適宜、予習を心がけること。また、グループによる講読やフレームワークを活用した企業・業界分析では担当教員から課題が与えられるので、指示に従って学習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

ディスカッション、コラボレーション、プレゼンテーション、フレームワーク、読解力

## グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、冒頭の2回は全グループ合同でフィールド実務についてのレクチャーを受ける。その後、3名程度からなる小グループ（研究テーマに応じて小グループ）ごとに専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る。

## 教科書 /Textbooks

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② フィールド実務の紹介  
【技術開発】【イノベーション】【ビジネス法務】【コンプライアンス】【危機管理】
- ③ グループ・プロジェクトにおける問題意識の共有  
【目的】【問題意識】【共有】
- ④～⑤ 課題討議1  
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑥～⑧ 課題討議2  
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑪ 課題討議3  
【調査研究手法の学習およびその適用】【報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑫ 報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】
- ⑬～⑮ 報告書作成  
【議論を元にした報告書作成】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物（55%）、報告会のパフォーマンス（15%）、討議に対する貢献度（15%）、調査研究の姿勢（15%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献資料を事前に配布、指示する。履修者は適宜、個別の担当教員の指示に従い、事前・事後学習を進めること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL



## グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。  
授業運営は、冒頭の2回は全グループ合同でフィールド実務についてのレクチャーを受ける。その後、3名程度からなる小グループ(研究テーマに応じて小グループ)ごとに専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る。

## 教科書 /Textbooks

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② フィールド実務の紹介  
【技術開発】【イノベーション】【ビジネス法務】【コンプライアンス】【危機管理】
- ③ グループ・プロジェクトにおける問題意識の共有  
【目的】【問題意識】【共有】
- ④～⑤ 課題討議1  
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑥～⑧ 課題討議2  
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑪ 課題討議3  
【調査研究手法の学習およびその適用】【報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑫ 報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】
- ⑬～⑮ 報告書作成  
【議論を元にした報告書作成】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物(55%)、報告会のパフォーマンス(15%)、討議に対する貢献度(15%)、調査研究の姿勢(15%)によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献資料を事前に配布、指示する。履修者は適宜、個別の担当教員の指示に従い、事前・事後学習を進めること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

## グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 舞田 靖子 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、冒頭の2回は全グループ合同でフィールド実務についてのレクチャーを受ける。その後、3名程度からなる小グループ（研究テーマに応じて小グループ）ごとに専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る。

## 教科書 /Textbooks

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② フィールド実務の紹介  
【技術開発】【イノベーション】【ビジネス法務】【コンプライアンス】【危機管理】
- ③ グループ・プロジェクトにおける問題意識の共有  
【目的】【問題意識】【共有】
- ④～⑤ 課題討議1  
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑥～⑧ 課題討議2  
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑪ 課題討議3  
【調査研究手法の学習およびその適用】【報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑫ 報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】
- ⑬～⑮ 報告書作成  
【議論を元にした報告書作成】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物（55%）、報告会のパフォーマンス（15%）、討議に対する貢献度（15%）、調査研究の姿勢（15%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献資料を事前に配布、指示する。履修者は適宜、個別の担当教員の指示に従い、事前・事後学習を進めること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

## グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、冒頭の2回は全グループ合同でフィールド実務についてのレクチャーを受ける。その後、3名程度からなる小グループ（研究テーマに応じて小グループ）ごとに専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る。

## 教科書 /Textbooks

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② フィールド実務の紹介  
【技術開発】【イノベーション】【ビジネス法務】【コンプライアンス】【危機管理】
- ③ グループ・プロジェクトにおける問題意識の共有  
【目的】【問題意識】【共有】
- ④～⑤ 課題討議1  
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑥～⑧ 課題討議2  
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑪ 課題討議3  
【調査研究手法の学習およびその適用】【報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑫ 報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】
- ⑬～⑮ 報告書作成  
【議論を元にした報告書作成】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物（55%）、報告会のパフォーマンス（15%）、討議に対する貢献度（15%）、調査研究の姿勢（15%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献資料を事前に配布、指示する。履修者は適宜、個別の担当教員の指示に従い、事前・事後学習を進めること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

## グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。  
授業運営は、冒頭の2回は全グループ合同でフィールド実務についてのレクチャーを受ける。その後、3名程度からなる小グループ（研究テーマに応じて小グループ）ごとに専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る。

## 教科書 /Textbooks

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② フィールド実務の紹介  
【技術開発】【イノベーション】【ビジネス法務】【コンプライアンス】【危機管理】
- ③ グループ・プロジェクトにおける問題意識の共有  
【目的】【問題意識】【共有】
- ④～⑤ 課題討議1  
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑥～⑧ 課題討議2  
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑪ 課題討議3  
【調査研究手法の学習およびその適用】【報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑫ 報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】
- ⑬～⑮ 報告書作成  
【議論を元にした報告書作成】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物（55%）、報告会のパフォーマンス（15%）、討議に対する貢献度（15%）、調査研究の姿勢（15%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献資料を事前に配布、指示する。履修者は適宜、個別の担当教員の指示に従い、事前・事後学習を進めること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

## グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、冒頭の2回は全グループ合同でフィールド実務についてのレクチャーを受ける。その後、3名程度からなる小グループ（研究テーマに応じて小グループ）ごとに専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る。

## 教科書 /Textbooks

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② フィールド実務の紹介  
【技術開発】【イノベーション】【ビジネス法務】【コンプライアンス】【危機管理】
- ③ グループ・プロジェクトにおける問題意識の共有  
【目的】【問題意識】【共有】
- ④～⑤ 課題討議1  
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑥～⑧ 課題討議2  
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑪ 課題討議3  
【調査研究手法の学習およびその適用】【報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑫ 報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】
- ⑬～⑮ 報告書作成  
【議論を元にした報告書作成】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物（55%）、報告会のパフォーマンス（15%）、討議に対する貢献度（15%）、調査研究の姿勢（15%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献資料を事前に配布、指示する。履修者は適宜、個別の担当教員の指示に従い、事前・事後学習を進めること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

## グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。  
授業運営は、冒頭の2回は全グループ合同でフィールド実務についてのレクチャーを受ける。その後、3名程度からなる小グループ（研究テーマに応じて小グループ）ごとに専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る。

## 教科書 /Textbooks

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② フィールド実務の紹介  
【技術開発】【イノベーション】【ビジネス法務】【コンプライアンス】【危機管理】
- ③ グループ・プロジェクトにおける問題意識の共有  
【目的】【問題意識】【共有】
- ④～⑤ 課題討議1  
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑥～⑧ 課題討議2  
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑪ 課題討議3  
【調査研究手法の学習およびその適用】【報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑫ 報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】
- ⑬～⑮ 報告書作成  
【議論を元にした報告書作成】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物（55%）、報告会のパフォーマンス（15%）、討議に対する貢献度（15%）、調査研究の姿勢（15%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献資料を事前に配布、指示する。履修者は適宜、個別の担当教員の指示に従い、事前・事後学習を進めること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

## グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、冒頭の2回は全グループ合同でフィールド実務についてのレクチャーを受ける。その後、3名程度からなる小グループ（研究テーマに応じて小グループ）ごとに専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る。

## 教科書 /Textbooks

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② フィールド実務の紹介  
【技術開発】【イノベーション】【ビジネス法務】【コンプライアンス】【危機管理】
- ③ グループ・プロジェクトにおける問題意識の共有  
【目的】【問題意識】【共有】
- ④～⑤ 課題討議1  
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑥～⑧ 課題討議2  
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑪ 課題討議3  
【調査研究手法の学習およびその適用】【報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑫ 報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】
- ⑬～⑮ 報告書作成  
【議論を元にした報告書作成】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物（55%）、報告会のパフォーマンス（15%）、討議に対する貢献度（15%）、調査研究の姿勢（15%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献資料を事前に配布、指示する。履修者は適宜、個別の担当教員の指示に従い、事前・事後学習を進めること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

## グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、冒頭の2回は全グループ合同でフィールド実務についてのレクチャーを受ける。その後、3名程度からなる小グループ（研究テーマに応じて小グループ）ごとに専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る。

## 教科書 /Textbooks

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② フィールド実務の紹介  
【技術開発】【イノベーション】【ビジネス法務】【コンプライアンス】【危機管理】
- ③ グループ・プロジェクトにおける問題意識の共有  
【目的】【問題意識】【共有】
- ④～⑤ 課題討議1  
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑥～⑧ 課題討議2  
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑪ 課題討議3  
【調査研究手法の学習およびその適用】【報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑫ 報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】
- ⑬～⑮ 報告書作成  
【議論を元にした報告書作成】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物（55%）、報告会のパフォーマンス（15%）、討議に対する貢献度（15%）、調査研究の姿勢（15%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献資料を事前に配布、指示する。履修者は適宜、個別の担当教員の指示に従い、事前・事後学習を進めること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL



## グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、冒頭の2回は全グループ合同でフィールド実務についてのレクチャーを受ける。その後、3名程度からなる小グループ（研究テーマに応じて小グループ）ごとに専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る。

## 教科書 /Textbooks

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

各グループの担当教員が適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② フィールド実務の紹介  
【技術開発】【イノベーション】【ビジネス法務】【コンプライアンス】【危機管理】
- ③ グループ・プロジェクトにおける問題意識の共有  
【目的】【問題意識】【共有】
- ④～⑤ 課題討議1  
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑥～⑧ 課題討議2  
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑪ 課題討議3  
【調査研究手法の学習およびその適用】【報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑫ 報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】
- ⑬～⑮ 報告書作成  
【議論を元にした報告書作成】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物（55%）、報告会のパフォーマンス（15%）、討議に対する貢献度（15%）、調査研究の姿勢（15%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献資料を事前に配布、指示する。履修者は適宜、個別の担当教員の指示に従い、事前・事後学習を進めること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させ、最終回にマネジメント研究科全体で報告会を実施する。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【これまでの成果物の問題点、改善点の整理】、
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討  
【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子およびその報告資料の作成と検討  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の報告会  
【ディスカッション】【プレゼンテーション】【アドバイス】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に紹介する。

## 履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。  
グループ・プロジェクトを履修済みのこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させ、最終回にマネジメント研究科全体で報告会を実施する。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【これまでの成果物の問題点、改善点の整理】、
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討  
【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子およびその報告資料の作成と検討  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の報告会  
【ディスカッション】【プレゼンテーション】【アドバイス】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に紹介する。

## 履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。  
グループ・プロジェクトを履修済みのこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させ、最終回にマネジメント研究科全体で報告会を実施する。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【これまでの成果物の問題点、改善点の整理】、
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討  
【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子およびその報告資料の作成と検討  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の報告会  
【ディスカッション】【プレゼンテーション】【アドバイス】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に紹介する。

## 履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。  
グループ・プロジェクトを履修済みのこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させ、最終回にマネジメント研究科全体で報告会を実施する。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【これまでの成果物の問題点、改善点の整理】、
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討  
【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子およびその報告資料の作成と検討  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の報告会  
【ディスカッション】【プレゼンテーション】【アドバイス】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に紹介する。

## 履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。  
グループ・プロジェクトを履修済みのこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させ、最終回にマネジメント研究科全体で報告会を実施する。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【これまでの成果物の問題点、改善点の整理】、
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討  
【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子およびその報告資料の作成と検討  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の報告会  
【ディスカッション】【プレゼンテーション】【アドバイス】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に紹介する。

## 履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。  
グループ・プロジェクトを履修済みのこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させ、最終回にマネジメント研究科全体で報告会を実施する。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【これまでの成果物の問題点、改善点の整理】、
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討  
【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子およびその報告資料の作成と検討  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の報告会  
【ディスカッション】【プレゼンテーション】【アドバイス】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に紹介する。

## 履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。  
グループ・プロジェクトを履修済みのこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させ、最終回にマネジメント研究科全体で報告会を実施する。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【これまでの成果物の問題点、改善点の整理】、
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討  
【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子およびその報告資料の作成と検討  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の報告会  
【ディスカッション】【プレゼンテーション】【アドバイス】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に紹介する。

## 履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。  
グループ・プロジェクトを履修済みのこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させ、最終回にマネジメント研究科全体で報告会を実施する。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【これまでの成果物の問題点、改善点の整理】、
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討  
【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子およびその報告資料の作成と検討  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の報告会  
【ディスカッション】【プレゼンテーション】【アドバイス】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に紹介する。

## 履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。  
グループ・プロジェクトを履修済みのこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させ、最終回にマネジメント研究科全体で報告会を実施する。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【これまでの成果物の問題点、改善点の整理】、
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討  
【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子およびその報告資料の作成と検討  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の報告会  
【ディスカッション】【プレゼンテーション】【アドバイス】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に紹介する。

## 履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。  
グループ・プロジェクトを履修済みのこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、本年度についてはマネジメント研究科全体で11月7日に経過報告会、1月11日の成果報告会を実施する予定である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ③～⑥ 調査研究の実施・報告および経過報告会の準備（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑦ プロジェクト研究経過報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施・報告および報告書・報告会資料の作成（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】【文章力】
- ⑪ プロジェクト研究報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑫ プロジェクト研究報告書の完成  
【文章力】【新規性】【独自性】【論理的思考】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に配布し、指示する

## 履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。  
プロジェクト研究Iを履修済みのこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、本年度についてはマネジメント研究科全体で11月7日に経過報告会、1月11日の成果報告会を実施する予定である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ③～⑥ 調査研究の実施・報告および経過報告会の準備（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑦ プロジェクト研究経過報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑧～⑬ 調査研究の実施・報告および報告書・報告会資料の作成（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】【文章力】
- ⑭ プロジェクト研究報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成  
【文章力】【新規性】【独自性】【論理的思考】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に配布し、指示する

## 履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。  
プロジェクト研究Iを履修済みのこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、本年度についてはマネジメント研究科全体で11月7日に経過報告会、1月11日の成果報告会を実施する予定である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ③～⑥ 調査研究の実施・報告および経過報告会の準備（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑦ プロジェクト研究経過報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑧～⑬ 調査研究の実施・報告および報告書・報告会資料の作成（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】【文章力】
- ⑭ プロジェクト研究報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成  
【文章力】【新規性】【独自性】【論理的思考】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に配布し、指示する

## 履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。  
プロジェクト研究Iを履修済みのこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、本年度についてはマネジメント研究科全体で11月7日に経過報告会、1月11日の成果報告会を実施する予定である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ③～⑥ 調査研究の実施・報告および経過報告会の準備（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑦ プロジェクト研究経過報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施・報告および報告書・報告会資料の作成（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】【文章力】
- ⑪ プロジェクト研究報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑫ プロジェクト研究報告書の完成  
【文章力】【新規性】【独自性】【論理的思考】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に配布し、指示する

## 履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。  
プロジェクト研究Iを履修済みのこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II【夜】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、本年度についてはマネジメント研究科全体で11月7日に経過報告会、1月11日の成果報告会を実施する予定である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ③～⑥ 調査研究の実施・報告および経過報告会の準備（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑦ プロジェクト研究経過報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施・報告および報告書・報告会資料の作成（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】【文章力】
- ⑪ プロジェクト研究報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑫ プロジェクト研究報告書の完成  
【文章力】【新規性】【独自性】【論理的思考】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に配布し、指示する

## 履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。  
プロジェクト研究Iを履修済みのこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、本年度についてはマネジメント研究科全体で11月7日に経過報告会、1月11日の成果報告会を実施する予定である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② リサーチ・クエスション（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ③～⑥ 調査研究の実施・報告および経過報告会の準備（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑦ プロジェクト研究経過報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑧～⑬ 調査研究の実施・報告および報告書・報告会資料の作成（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】【文章力】
- ⑭ プロジェクト研究報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成  
【文章力】【新規性】【独自性】【論理的思考】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に配布し、指示する

## 履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。  
プロジェクト研究Iを履修済みのこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



## プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、本年度についてはマネジメント研究科全体で11月7日に経過報告会、1月11日の成果報告会を実施する予定である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ③～⑥ 調査研究の実施・報告および経過報告会の準備（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑦ プロジェクト研究経過報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑧～⑬ 調査研究の実施・報告および報告書・報告会資料の作成（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】【文章力】
- ⑭ プロジェクト研究報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成  
【文章力】【新規性】【独自性】【論理的思考】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に配布し、指示する

## 履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。  
プロジェクト研究Iを履修済みのこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、本年度についてはマネジメント研究科全体で11月7日に経過報告会、1月11日の成果報告会を実施する予定である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ③～⑥ 調査研究の実施・報告および経過報告会の準備（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑦ プロジェクト研究経過報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑧～⑬ 調査研究の実施・報告および報告書・報告会資料の作成（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】【文章力】
- ⑭ プロジェクト研究報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成  
【文章力】【新規性】【独自性】【論理的思考】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に配布し、指示する

## 履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。  
プロジェクト研究Iを履修済みのこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、本年度についてはマネジメント研究科全体で11月7日に経過報告会、1月11日の成果報告会を実施する予定である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ③～⑥ 調査研究の実施・報告および経過報告会の準備（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑦ プロジェクト研究経過報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施・報告および報告書・報告会資料の作成（進捗状況の管理）  
【質疑応答】【討議を繰り返す】【文章力】
- ⑪ プロジェクト研究報告会の実施  
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑫ プロジェクト研究報告書の完成  
【文章力】【新規性】【独自性】【論理的思考】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に配布し、指示する

## 履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。  
プロジェクト研究Iを履修済みのこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords